

ジャズ・ポピュラー学科

1年次生

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅠ
担当講師名	遠山拓志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	トランペット

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプログラミングの実務経験があります。

授業内容

コープラッシュ、コーリン等の教本を使い、基礎技術の向上を目指します。
基本スケール、コードアルペジオ等を習得し、インプロビゼーションに応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎技術を向上させることにより、演奏可能な事を増やす。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：顔合わせ、授業内容の説明
- ②基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、呼吸法、発音の仕組み
- ③基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、マウスピースの性格と傾向
- ④基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、メジャートライアドのアルペジオ
- ⑤基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、メジャートライアドのアルペジオ
- ⑥基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、メジャートライアドのアルペジオ
- ⑦中間試験：コープラッシュより出題。グレードに合わせてスケールを出題。

中間試験評価方法・評価基準

実技と平常点により判定します。
コープラッシュ、コーリンより出題し、演奏技術の向上を判定します。
また、出席率、向上心、授業態度、課題の消化率等、積極的に取り組んでいるか総合的に判断します。
出席：30% 平常点：30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：1 クオーターまでの確認
- ⑨基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、マイナートライアドのアルペジオ
- ⑩基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、マイナートライアドのアルペジオ
- ⑪基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、マイナートライアドのアルペジオ
- ⑫基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、セブンスコードの理解
- ⑬基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、セブンスコードの理解
- ⑭基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、セブンスコードの理解
- ⑮期末試験：コーブラッシュより出題。グレードに合わせてスケールを出題。

期末試験評価方法・評価基準

実技と平常点により判定します。
コーブラッシュ、コーリンより出題し、演奏技術の向上を判定します。
また、出席率、向上心、授業態度、課題の消化率等、積極的に取り組んでいるか総合的に
判断します。
出席：30% 平常点：30% 試験 40%

特記事項

各種教本、五線紙、必ず持参してください。
また、ホワイトボードの書いた事を写真に撮ることは禁止します。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング I (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ブルース曲、ジャズスタンダード曲でアドリブソロを演奏出来るようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メジャースケールとマイナースケールを学びます。
- ② マイナーペンタトニックスケールを学びます。
- ③ マイナーペンタトニックスケールのフレーズを学びます。
- ④ メジャーぺンタトニックスケールとフレーズを学びます。
- ⑤ ブルーススケールを学びます。
- ⑥ ブルーススケールのフレーズを学びます。
- ⑦ 中間試験：ブルース曲のテーマとアドリブソロを演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

スケールを確実に演奏出来るか、またそれをソロにきちんと生かせるかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ダイアトニックコードを理解し、アルペジオで演奏します。
- ⑨ ダイアトニックコードとモードの関係を学びます。
- ⑩ イオニアンとドリアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑪ フリジアンとリディアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑫ ミクソリディアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑬ エオリアンとロクリアンのスケールとフレーズを学びます。
- ⑭ 実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
- ⑮ ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
楽曲分析及び使用するスケールを理解しているかで評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング I
担当講師名	菅原潤子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギター教則本執筆 / 教則 DVD 制作 / 動画制作等の実績があります。

授業内容

ギター演奏における基礎を学びます。
読譜&採譜。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ギター演奏における基礎を学び、バックキング演奏やアドリブソロで活かせるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 授業内容の説明。
- ② フォーム&運指の確認、指板の理解。
- ③ メジャースケール 5 ポジション
- ④ メジャースケール 5 ポジション、ダイアトニックコード
- ⑤ 表情をつけるテクニック（ヴィブラート、ベンディング、スライド、etc…）
- ⑥ コードフォーム&アルペジオ
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、取り組む姿勢。授業内容の理解度。

既存の楽曲を耳コピーし、譜面におこして演奏する。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 1 クオーターのおさらい

- ⑨ コードフォーム&アルペジオ、ダイアトニックアルペジオ
- ⑩ 3種類のマイナースケール、ダイアトニックコード
- ⑪ ペンタトニックスケール5ポジション
- ⑫ メジャー&マイナーペンタトニック
- ⑬ ブルース演奏
- ⑭ 既存の楽曲を耳コピーして譜面を作成して演奏する。
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、取り組む姿勢。授業内容の理解度。

既存の楽曲を耳コピーし、譜面におこして演奏する。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (Key) I
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関する実務経歴

講師は、ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

アンサンブルや、ジャズセッションに必要なキーボードのテクニック（主にコードに関して）を学習していきます。両授業で取り上げている曲を中心にフォローアップの形で進めています。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

この授業で学習したことが、アンサンブルやセッションといった授業に活用できたり、学科内の自主ライブに活用できているかどうか。そして、その技法を一つ一つ理解し、応用できているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①色々な形のコンピング①：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ②色々な形のコンピング②：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ③色々な形のコンピング③：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ④色々な形のコンピング④：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ⑤色々な形のコンピング⑤：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ⑥試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フォローアップ①：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑨フォローアップ②：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑩フォローアップ③：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑪フォローアップ④：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑫フォローアップ⑤：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑬フォローアップ⑥：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑭試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (B) I
担当講師名	三枝俊治
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース

担当科目に関する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

ベースという楽器の演奏上の基礎的な項目を、専攻実技とは違った角度からグループレッスンで勉強します。読譜、リズムトレーニング、運指の練習を通して各自の課題に取り組み、また他の授業で遭遇した課題、問題点、質問にも対応します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

長時間の演奏でも体を痛めない正しいフォーム、正確なビートとサブディヴァイドされたリズム感、基礎的な読譜の能力等を身に付ける事を目標とします。2年間の学生生活から卒業後に自己鍛錬を続ける事まで視野に入れた土台作りとなります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①この授業の年間計画を説明し、受講するに当たってのビジョンを共有してもらいます。必ずやるべきエクササイズを紹介し演奏してもらいます。
- ②アンサンブルで求められるベースラインの作り方の基礎を学び、実際に演奏します。
- ③コードネームの基礎とメジャー、マイナー、セブンス等が指板上でどのように並ぶのかを学びます。
- ④クオーター末の実技試験の基礎確認課題を練習し、効率的な運指の考え方を学びます。
- ⑤タイム、ビート、リズム、グルーヴ等の言葉の意味を確認し、練習に活かせるよう解説します。
- ⑥様々なスタイルのリズムの譜面上の表記を確認し、目で見てリズムを捉えるトレーニングをします。
- ⑦中間試験：授業で扱った楽譜の演奏を試験します。

中間試験評価方法・評価基準

平常時の取り組みの成果など各自の進歩具合と、読譜力と演奏力の試験結果を合わせて採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧学期末の基礎確認課題を練習します。ペントナミックのエクササイズも練習します。
- ⑨What a fool believes のフレーズを使って、シンコペーションとサブディヴァイドを練習します。
- ⑩何種類かのピッキング法に渡り、同じフレーズで異なった表現を練習します。
- ⑪シャッフルやスティングのリズムと、2拍3連、4拍3連のリズムの取り方を学び、練習します。
- ⑫16分音符と休符の組み合わせと表記を学び、正確なリズムで演奏する練習をします。
- ⑬3連符の中抜き、頭抜き等のフレーズを、ビートを感じながら演奏する練習をします。
- ⑭Isn't She Lovely を題材に、シャッフルと2拍3連が組み合わさった演奏を練習します。
- ⑮学期末試験：Isn't She Lovely の演奏を通して、コードトーンの理解と自由なリズムの演奏ができるかどうかを試験します。

期末試験評価方法・評価基準

決まったコード進行と正しいリズムの中で如何に自由に演奏ができるかどうかを採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (Dr) I
担当講師名	増田博之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻生

担当科目に関する実務経歴

担当講師はオペラ、ミュージカル、スタジオ録音、ライヴ等の現場で、プレイヤーとしての実務経験を持つ。

授業内容

ドラムセットの基本として、スネアドラムの奏法を習得します。1, 2, 5 つ打ち、オープショロール、アクセント等のテクニックの他に、基礎リズムを演奏して、リズムの取り方や感じ方を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・奏法を理解し、正しいフォームで正確に演奏することができる。
- ・楽譜を読みながら演奏できる。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① オリエンテーション （授業内容の説明）
- ② 1つ打ち・基礎リズム （スティックの持ち方、構え方を確認）
- ③ 基礎リズム・アクセントの練習
- ④ パラディドル （シングル、ダブル、トリプルパラディドルの奏法の説明と練習）
- ⑤ エチュードの演奏 （打楽器教則本より何曲か取り上げ、これまでのテクニックを確認）
- ⑥ 試験準備（I クオーターで学習した事の確認、復習）
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

スティックの持ち方、構え方、正しい奏法、左右のバランスと音色、正確なリズムを評価します。また、授業に取り組む姿勢も評価の対象とします。

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 2つ打ち (奏法の説明と練習)
- ⑨ 5つ打ち (奏法の説明と練習)
- ⑩ オープンロール、フラム、ドラグ (奏法の説明と練習)
- ⑪ ルーディメント (フラムアクセント、フラムタップ、フラムパラディドルなどの奏法の説明と練習)
- ⑫ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より 2/4 拍子)
- ⑬ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より 2/4 拍子)
- ⑭ 試験準備 (Ⅱ クオーターで学習した事の確認、復習)
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

正しい奏法、音色と音量、正確なリズム、強弱への対応、テンポアップ等で評価します。また、授業に取り組む姿勢も評価の対象とします。

特記事項

・欠席数、遅刻数も評価の対象とします。（オリエンテーション時に説明します。）

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ
担当講師名	遠山拓志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	トランペット

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプログラミングの実務経験があります。

授業内容

コープラッシュ、コーリン等の教本を使い、基礎技術の向上を目指します。
基本スケール、コードアルペジオ等を習得し、インプロビゼーションに応用できるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎技術を向上させることにより、演奏可能な事を増やす。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：2クオーターまでの確認
- ②基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、コードトーンとガイドノート
- ③基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、コードトーンとガイドノート
- ④基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、コードトーンとガイドノート
- ⑤基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、Fblues
- ⑥基礎：コープラッシュ、スケール、リップスラー、Fblues
- ⑦中間試験：コープラッシュより出題。グレードに合わせてスケールを出題。

中間試験評価方法・評価基準

実技と平常点により判定します。
コープラッシュ、コーリンより出題し、演奏技術の向上を判定します。
また、出席率、向上心、授業態度、課題の消化率等、積極的に取り組んでいるか総合的に判断します。
出席：30% 平常点：30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧ガイダンス：3 クオーターまでの確認

⑨基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑩基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑪基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑫基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑬基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑭基礎：コーブラッシュ、スケール、リップスラー、ハイノートトレーニング

⑮期末試験：コーブラッシュより出題。グレードに合わせてスケールを出題。

期末試験評価方法・評価基準

実技と平常点により判定します。

コーブラッシュ、コーリンより出題し、演奏技術の向上を判定します。

また、出席率、向上心、授業態度、課題の消化率等、積極的に取り組んでいるか総合的に判断します。

出席：30% 平常点：30% 試験 40%

特記事項

各種教本、五線紙、必ず持参してください。

また、ホワイトボードの書いた事を写真に撮ることは禁止します。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニングⅡ (Sax)
担当講師名	佐々木亜紀子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は TV、ドキュメンタリー映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、バンド活動等の経験を持ちます。

授業内容

コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コード進行に対するスケールの正確さ及び、様々なフレーズを演奏出来るようになることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ハーモニックマイナースケールを学びます。
- ② ハーモニックマイナー・パーフェクト 5 t h ビロウを学びます。
- ③ メジャーⅡVフレーズを学びます。
- ④ マイナーⅡVフレーズを学びます。
- ⑤ ショートⅡVフレーズを学びます。
- ⑥ ⅡVフレーズを曲で実践してみます。
- ⑦ 中間試験：メジャーⅡVフレーズとマイナーⅡVフレーズを12keyで演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。

フレーズを確実に演奏出来るか、またそれを様々なkeyで応用出来るかで評価します。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズマイナースケールを学びます。
- ⑨ リディアン b7th スケールを学びます。
- ⑩ ノンダイアトニックコードとスケールの関係性を学びます。
- ⑪ オルタードスケールを学びます。
- ⑫ オルタードスケールのフレーズを学びます。
- ⑬ ディミニッシュコードとオーギュメントコードを学びます。
- ⑭ 実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
- ⑮ 期末試験：ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。
楽曲分析及び使用するスケールを理解・実践しているかで評価します。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング II
担当講師名	菅原潤子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター

担当科目に関する実務経歴

講師はギター教則本執筆 / 教則 DVD 制作 / 動画制作等の実績があります。

授業内容

ギター演奏における基礎を学びます。
読譜&採譜。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ギター演奏における基礎を学び、バックキング演奏やアドリブソロで活かせるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 2 クオーターのおさらい
- ② ドリアン
- ③ フリジアン
- ④ リディアン
- ⑤ ミクソリディアン
- ⑥ ロクリアン
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、取り組む姿勢。授業内容の理解度。

既存の楽曲を耳コピーし、譜面におこして演奏する。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3 クオーターのおさらい

- ⑨ 様々な楽曲をアナライズします。
- ⑩ 様々な音楽スタイルのバックキングを学びます。
- ⑪ 様々な音楽スタイルのバックキングを学びます。
- ⑫ セカンダリードミナント
- ⑬ コードの転回形。
- ⑭ 既存の楽曲を耳コピーして譜面を作成して演奏する。
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席率、授業態度、取り組む姿勢。授業内容の理解度。

既存の楽曲を耳コピーし、譜面におこして演奏する。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (Key) II
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関する実務経歴

講師は、ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

授業内容

アンサンブルや、ジャズセッションに必要なキーボードのテクニック（主にコードに関して）を学習していきます。両授業で取り上げている曲を中心にフォローアップの形で進めています

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

この授業で学習したことが、アンサンブルやセッションといった授業に活用できたり、学科内の自主ライブに活用できているかどうか。そして、その技法を一つ一つ理解し、応用できているか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①色々な形のコンピング①：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ②色々な形のコンピング②：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ③色々な形のコンピング③：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ④色々な形のコンピング④：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ⑤色々な形のコンピング⑤：色々な今日のスタイルのコンピングを学習。（Swing, Bossa, Samba, Latin, 16beat, etc….)
- ⑥試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑦総括：試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

中間試験評価方法・評価基準

毎回の授業への取り組み方で評価します。欠席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：30% 試験：30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧フォローアップ①：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑨フォローアップ②：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑩フォローアップ③：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑪フォローアップ④：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑫フォローアップ⑤：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑬フォローアップ⑥：アンサンブル & ジャズセッション授業において、できていないところの強化。
- ⑭試験：課題曲を演奏する。（録画します。）
- ⑮総括：試験の映像を見て、反省すると共に、2年生に向けての目標を設定する。

期末試験評価方法・評価基準

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (B) II
担当講師名	三枝俊治
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース

担当科目に関する実務経歴

講師は 30 年以上に亘りプログレッシブロックバンド KENSO に在籍し、高度な技術を要する演奏、作曲、アンサンブルの経験を持ちます。また、自身がコントラバス演奏をして率いるグループで、作曲作品の CD を発売しています。

授業内容

秋学期は少し高度な内容に挑戦していきます。技術的には左手による音の切り方、右手のアクセントのつけ方等を練習して音符の長さをコントロールし、より音楽的に演奏する方法を学びます。キーとダイアトニックコードの認識など、理論的な事も合わせて学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

音価とダイナミクスをコントロールすることにより、より音楽的な表現ができるレベルまで到達することが目標です。また、キーとダイアトニックコードから基礎的なコード進行の分析ができるようにし、ベースラインを構築できるようにする事も目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①左手異弦同フレット移動、右手レイキング、跳び弦等のエクササイズを練習します。
- ②I Want You Back のフレーズを題材に、メジャー、マイナーの 3 和音の組み合わせを学びます。
- ③3 クオーター基礎確認課題のポジション移動を伴うスケール練習を通して、効率的なポジション移動の運指の考え方を学びます。
- ④コードトーンを中心に 8 ビート 16 ビートのベースラインを自分で考えて演奏する練習をします。
- ⑤コードトーン同士をつなぐ経過音の使い方を学び、スムーズなウォーキングベースラインを演奏する練習をします。
- ⑥スタンダード曲を題材に、キーとスケールを念頭に置いたベースラインの作り方を学びます。
- ⑦中間試験：シンプルなスタンダード曲を題材に、ウォーキングベースの演奏をテストします。

中間試験評価方法・評価基準

コードトーンと経過音の理解、総合的に安定したリズムでスムーズな演奏ができるかどうかを採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑧4 クオーター基礎確認課題のモードを、講師の提案した運指を参考に演奏します。
- ⑨メジャー、マイナーの 3 和音の構成音の上から、下から、上下からのアプローチノートを学び、練習します。
- ⑩実際の曲の中でアプローチノートをどのように使うことができるか演奏してみます。
- ⑪マイナーキーのドミナントコードやセカンドリードミナントを含むコード進行で、ダイアトニックから外れる音を意識したアドリブを考えます。
- ⑫Just The Two Of Us と Home At Last のフレーズを題材に、スライドの技術の練習をします。
- ⑬星空サイクリング、Let It Flow を題材に、スピード感覚をトレーニングします。
- ⑭決まったコード進行とリズムから、スタイルに合ったベースラインの作り方を学びます。
- ⑮学期末試験：コード進行とリズムを提示し、ベースラインを自分で考えて演奏してもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

自由にベースラインを作り、良いリズムで演奏する能力と、左手、右手のフォームを採点します。試験演奏 70%、平常点 30%の満点から、出席を重視し、遅刻一回 1 点、欠席一回 3 点を減点します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ベーシックトレーニング (Dr) II
担当講師名	増田博之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム専攻生

担当科目に関する実務経歴

担当講師はオペラ、ミュージカル、スタジオ録音、ライヴ等の現場で、プレイヤーとしての実務経験を持ちます。

授業内容

ドラムセットの基本として、スネアドラムの奏法を習得します。7、9つ打ち、ルーディメント等の技術を教則本などを使って学習します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・奏法を理解し、正しいフォームで正確に演奏することができる。
- ・I クオーターよりも読譜力が向上している。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 7つ打ち （奏法の説明、加減速）
- ② ルーディメント （教則本に出てくるルーディメントを個別に取り上げ、奏法の説明。）
- ③ エチュードの演奏 （Collection Of Drum Solos より 2/4 拍子）
- ④ ルーディメント （教則本に出てくるルーディメントを個別に取り上げ、奏法の説明。）
- ⑤ エチュードの演奏 （Collection Of Drum Solos より 2/4 拍子）
- ⑥ 試験準備 （III クオーターで学習した事の確認、復習）
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

左右のバランスと音色、リズムの正確さ、強弱への対応、ミスのない演奏等を評価します。また、授業に取り組む姿勢も評価の対象とします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 9つ打ち (奏法の説明、加減速)
- ⑨ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より)
- ⑩ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より)
- ⑪ 2重奏の演奏 (S. Dr2 重奏を演奏)
- ⑫ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より)
- ⑬ エチュードの演奏 (Collection Of Drum Solos より)
- ⑭ 試験準備 (IVクオーターで学習した事の確認、復習)
- ⑮ 試験

期末試験評価方法・評価基準

正しい奏法、音色と音量、正確なリズム、強弱への対応、テンポアップ等で評価します。
また、授業に取り組む姿勢も評価の対象とします。

特記事項

欠席数、遅刻数も評価の対象とします。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションI
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための基礎部分学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための基礎部分学習です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での和声進行表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目指とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①講義概要説明など／アドリブ方法論の解説と今期の講義予定・目標の説明。また、各生徒一人一人の技術や知識の確認もします。各生徒の技能にあわせ技術的な課題を提案し自習を促します。
- ②もっとも単純な手法を使ったアドリブ／ブルーノートスケールを使ったアドリブやダイアトニックを使ったアドリブの利便性と重要性、また安易だという危険性を解説し実践します。将来的に全てのキー、すべてのコードでアドリブができる様になるため、いわゆるエニキー練習(全調でのフレーズ練習)を開始します。
- ③マイナー・コード、メジャー・コード、セブンス・コードでのメロディ作り／コード進行がない、ひとつのコードが連続する伴奏上で1～5度の音のみを使って演習を行いメロディの基本的な構造的特性を理解するようにします。またその練習中にアプローチノートの説明も行い、その技法の様々な用途を練習します。
- ④分散和音を使った和声解決表現 1／V 7から抽出した3、5、7、♭9アルペジオと I m アルペジオの反復を即興で演奏し、最も原始的な和声進行上でのアドリブを経験します。
- ⑤分散和音を使った和声解決表現 3／ダイアトニックスケール上の音のみ、またはマイナーペンタトニックやブルーノートを使ったブルース表現を、上記練習と混ぜ合わせて練

習してみます。

⑥アプローチノートの技法 1／様々なアプローチノートとディレイドリズルブについて説明。その利点と使用法、練習法を解説します。

⑦1 クオーターのまとめ／1～6回の授業の理解度を、質問・筆記(ホワイトボードへの板書)・実演にて確認し、追加解説にて不足を補います。

中間試験評価方法・評価基準

第7回授業での質問・筆記・実演にて判断。それぞれの理解の度合いを評価します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧アプローチノートの技法 2／3～4音を使ったディレイドリズルブをマイナーコード上でダイアトニックスケールの練習に織り交ぜる訓練をします。

⑨分散和音を使った和声解決表現 4／曲に指定されたタイミングではなくアドリブのメロディラインに自由にドミナント機能を持った音を挿入する訓練をします。

⑩これまでの手法の統合 1／これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深めます。

⑪これまでの手法の統合 2／上記譜面を再制作し、習得度を確認。同時に演奏し、その譜面にマッチした吹き方やリズムなどの最適解などを探ります。

⑫これまでの手法の統合 3／上記技法統合をスローテンポながらもリアルタイムで演奏し訓練。情報処理速度の向上を目指します。

⑬夏休み明けの進歩確認／上記技法統合のスピードを長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。

⑭模擬試験と採点／次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。

⑮試験／技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

期末試験評価方法・評価基準

理解度、習得度を重要視し採点。アドリブのリアルタイム実演における情報処理速度不足については重要視せず、スローテンポでの演奏を許可します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅠ
担当講師名	宮崎隆睦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サックス

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアーや、レコーディング、アレンジ、ミュージックプログラミング、ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動の実務経験があります。

授業内容

ジャズに限らずアドリヴをマスターするためには理論的側面を確実に理解しないといけません。ただ、それはそれほど難しいものではありません。まずは基本のスケール、ジャズの言語となるフレーズを少しずつ覚えていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードスケールを確実に覚えてスタンダード曲のアドリヴソロを演奏することを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス / アーティキュレーションについて
- ②コード、コード進行について
- ③アヴェイラブルコードスケールについて
- ④ブルースについて / モチーフを使う
- ⑤モチーフの展開について①
- ⑥モチーフの展開について②
- ⑦試験（ブルース進行でソロを演奏）

中間試験評価方法・評価基準

ブルース進行でソロを演奏してもらいます。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲分析、演奏①
- ⑨楽曲分析、演奏②
- ⑩楽曲分析、演奏③
- ⑪楽曲分析、演奏④
- ⑫楽曲分析、演奏⑤
- ⑬楽曲分析、演奏⑥
- ⑭楽曲分析、演奏⑦
- ⑮試験（任意の楽曲でソロを演奏）

期末試験評価方法・評価基準

授業で分析した中から任意の楽曲でソロを演奏してもらいます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

特記事項

学科名	ジャズポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション I
担当講師名	寺屋ナオ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター

担当科目に関する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、様々なコード進行の上でのメロディの作り方(ソロの取り方)を学びます。1Q はブルース的なメロディの作り方について。2Q はコードトーンを使ったメロディの作り方を学び、コード進行が聞こえてくるようなソロを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1Q はブルージーなメロディのセンスの理解と、それらを様々なキーで演奏出来るの事を目標にしています。2Q はより確実にコード進行を表したソロを弾く事を目標にします。

授業計画（1回目から 7回目）

①-ブルージーなソロアプローチ-

- マイナーペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプローチを学びます。
- ②マイナーペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプローチを学びます。12Key 全てを練習するのを目標とします。
- ③メージャーペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプローチを学びます。
- ④メージャーペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプローチを学びます。12Key 全てを練習するのを目標とします。
- ⑤メージャー、マイナー、両ペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプローチを学びます。
- ⑥メージャー、マイナー、両ペンタトニックスケールとブルーノートを使ったソロアプロ

ーチを学びます。

⑦実技試験実施

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。

実技試験は、ランダムに選んだキーのブルースでソロをとってもらい、授業の内容をふまえたソロを演奏できるか、で評価します。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧コードの構成音を使ったソロアプローチについて

⑨C メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑩F メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑪Bb メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑫Eb メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑬Ab メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑭Db メジャーキィのダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑮実技試験実施

指定したコード進行上でソロをとってもらい、その内容で評価します。

期末試験評価方法・評価基準

記試験を実施します。

連続性の高い授業なので出席を重視し、採点します。採点の比率は下記参照。

実技試験は、幾つかのキーの循環コード上でソロをとってもらい、授業の理解度を図ります。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション(key) I
担当講師名	石田衛
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関する実務経歴

講師は国内外の様々なジャズミュージシャンとのライブやレコーディングの経験を持ちます。

授業内容

多様なコードのサウンドや、それに関連したスールを紹介します。それらのスールを使用してコード進行上で即興的にメロディーを作り演奏する方法を学びます。またジャズの基礎であるスイングビートについても体感して学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

シンプルなコード進行を初見で把握し、それにフィットしたメロディーを即興的に創造する能力を身に着ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①顔合わせ、授業内容の説明
- ②トライトーン(3度と7度)
- ③マイナーセブンとマイナーセブンフラットファイブ
- ④ダイアトニック
- ⑤ドミナントとサブドミナント
- ⑥メジャーに解決するツーファイブ
- ⑦マイナーに解決するツーファイブ

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧オーギュメントとディミニッシュ(Whole half diminished scale)
- ⑨裏のコード
- ⑩Mixolydian
- ⑪Whole tone scale
- ⑫コンディミ(Half whole diminished scale)
- ⑬Lydian 7th scale
- ⑭Altered scale
- ⑮まとめ

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅠ
担当講師名	山本裕之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース

担当科目に関する実務経歴

ジャズピアニスト山中千尋の Trio ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に出演。多くのジャズライブ、レコーディングに参加している

授業内容

ジャズ・スタンダードを題材に、walking bass、Bass line の作り方を学びます。
前半は 12 小節 Blues の様々なコード進行、Minor Blues、4 度進行の曲(Autumn leaves 等)を題材に様々なアプローチを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

題材にしたジャズ・スタンダードを実際に演奏して、ルート音、コードトーン、ダイアトニックノート、アプローチノートを使った Bass line や、裏コードを想定した walking bass の組み立て方をインプットする事を目標とします。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①12 小節 Blues を題材に、ルート音～コードトーンで walking bass の組み立て方を学びます。
- ②Blues を題材に、ダイアトニック～アプローチノートで walking bass の組み立て方を学びます。
- ③コードトーン、ダイアトニック、アプローチノートを使って walking bass を実際に演奏します。
- ④セカンダリードミナントや、ターンアラウンドが発生した Blues や、Blues for alice 等
- ⑤12 小節 Blues で学んだ walking bass を実際に演奏して、アウトプットしていきます。
- ⑥12 小節 Blues を様々な Key(F. B♭ . C. E♭ 等)で分析、セッションして理解を深めます。
- ⑦試験。様々なバリエーション、アプローチでスムーズに Bass line が作れることを評価

のポイントとします。

中間試験評価方法・評価基準

Blues を題材に、様々なバリエーションの walking bass を実際の演奏でアウトプットできること。及び授業での取り組み、出席率で評価します。評価項目（試験結果 40%、平常点 30%、出席 30%）

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧コードトーン～ダイアトニックノートで 2beat, walking bass の組み立て方を学びます。
- ⑨アプローチノート～裏コードを想定した walking bass の組み立て方を学びます。
- ⑩第1回、第2回で学んだ walking bass を実際に演奏して、アウトプットしていきます。
- ⑪コードトーン、ダイアトニックノート、walking bass の組み立て方を学びます。
- ⑫4 度進行の曲を題材に様々な Key で分析、セッションして理解を深めます。
- ⑬All the things you are を題材に walking bass の組み立て方を学びます。
- ⑭第6回で学んだ walking bass を実際に演奏して、アウトプットしていきます。
- ⑮様々なバリエーション、アプローチでスムーズに Bass line が作れることを評価のポイントとします。

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（4 度進行の曲を題材に、様々なバリエーションの walking bass を実際の演奏でアウトプットできること）、及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容などで、出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション(Drums) I
担当講師名	大井澄東
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム

担当科目に関する実務経歴

講師は Jazz、Latin、Brazilian、Funk 等、様々なジャンルでのライブ、コンサートツアー、レコーディングの実務経験があります。

授業内容

ヨーロッパのクラシックとアフリカのリズムが融合して生まれた現代のポップスをドラムセットでの演奏法という角度から学ぶ科目です。前期は Swing を中心とした Jazz の演奏法を学びます。基本から応用まで受講者のレベルに合わせて進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Jazz の演奏法を一通り体験します。しっかり身に着けるには時間がかかるので、予習復習を欠かさず行いましょう。最大の目標はジャズに親しみ好きになる事です。好きになる事が最も効果的な上達法ですから。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Swing 基礎 タイムキープ、レガート、フェザリング、ハイハットの踏み方
- ② Swing 基礎 コンピングの基礎 奇数拍裏と偶数拍裏
- ③ Swing 基礎 2 Feel セカンドラインとの関係、ハイハットのコントロール
- ④ Swing 基礎 シンコペーション Bop Drumming の基礎、4 裏/1 裏/4 拍表 キメの処理
- ⑤ Swing 基礎 ブラシ バラード、ミディアムスイング
- ⑥ Swing 基礎 ドラムソロ Philly” Joe” Jones スタイル、コピーを中心に
- ⑦ 試験 このクオーターで学んだスタイルの実演

中間試験評価方法・評価基準

授業への取り組み方で評価します。

出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ① Jazz バリエーション Jazz におけるラテン アフロ
- ② Jazz バリエーション 3/4 スイングワルツ、8/6Feel、ポリリズム①
- ③ Jazz バリエーション New Orleans Jazz Drumming 2nd Line Iko-Iko
- ④ Jazz バリエーション Triplet Feel エルビンジョーンズスタイル研究
- ⑤ Jazz バリエーション クロスリズム 小節線を飛び越える
- ⑥ Jazz バリエーション Fast Swing 「In Two」で感じる
- ⑦ Jazz バリエーション コンテンポラリー Straight 8th Feel/変拍子・奇数拍子
- ⑧ 試験 このクオーターで学んだスタイルの実演

期末試験評価方法・評価基準

授業への取り組み方で評価します。

出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション I
担当講師名	須田晶子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	Jazz Vocal

担当科目に関する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます。

授業内容

ジャズ＆ポピュラーにおけるボーカルテクニックやボーカリストとしての必要な要素を曲を交えながら研究し習得する学習です。

*曲は変更になる場合があります。

到達目標(この授業で何ができるようになるのか)

発声法、発音方法、様々な技術を習得し、自分自身が自分のスタイルや嗜好を見つけ、どんな状況でも対応できることを目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①体の仕組みを理解し、それにおける姿勢、呼吸、発声を練習します。
- ②呼吸、発声、英語の発音を確認しイントーンという練習法で学んでいきます。
Bye Bye Blackbird
- ③呼吸、発声、英語の発音を確認しイントーンという練習法で学んでいきます。
Fly Me To The Moon
- ④自分自身で発音を確実に確認できるよう、発音記号の見方と発音の一致を練習します。
- ⑤自分自身で発音を確実に確認できるよう、発音記号の見方と発音の一致を練習します。
- ⑥曲のストーリーを意識して声で情景が浮かぶような意識にフォーカスします。
- ⑦自分で選んだ曲を今まで学んできた経験と共に演奏してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

学ぶ意欲が感じられること、出席数、少しでもステップアップ出来ているかを主に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

⑧Jazz vocalでは欠かせないRubatoを練習します。

Someon To Watch Over Me

⑨様々な声の出し方を色んな音源を聴き分析し、体の仕組みと共に研究します。

⑩発声と同じく大切なリズムにフォーカスして練習します。

Jazz Standard一曲、Soul Music系一曲

⑪Bossa Novaの特徴を研究します。

The Girl From Ipanema / One Note Samba

⑫今まで学んできたことで曖昧な部分を確認しながら自分のできること、出来ないことを確認します。

⑬早いフレーズやテンポの曲を歌うコツを研究します。

⑭曲のストーリーを意識して声で情景が浮かぶような意識にフォーカスします。

⑮自分で選んだ曲を今まで学んできた経験と共に演奏してもらいます。

期末試験評価方法・評価基準

学ぶ意欲が感じられること、出席数、少しでもステップアップ出来ているかを主に評価します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	金管楽器

担当科目に関する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための基礎部分学習です。

授業内容

ジャズ&ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための基礎部分学習です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での和声進行表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①combination of diminished scale 1 / combination of diminished scaleの特性の把握と演奏訓練です。
- ②combination of diminished scale 2 / combination of diminished scaleを使ったドミナントモーション表現をゆっくりなテンポから練習していきます。
- ③combination of diminished scale 3 / 春学期で身につけた技法との統合をします。
- ④先例の分析とストックフレーズ作成／過去の名演でのドミナントフレーズなどを分析し構造を把握。また同様な物を自作し自己内定番フレーズにしてみます。
- ⑤diminished scale／トニックディミニッシュなど、ディミニッシュスケールを利用すべき場面での演奏方法の理解と練習をします。
- ⑥ブルース進行でのアドリブ 1／ジャズブルース和声進行の編集可能なバリエーションを確認し今までの技法をあてはめソロを書いて演奏してみます。
- ⑦ブルース進行でのアドリブ 2／上記内容の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演をしてもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験評価方法

理解度、習得度を重要視し採点。アドリブリアルタイム実演における情報処理速度不足については重要視せず、スローテンポでの演奏を許可します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧There will never be another you／曲の和声進行の編集可能なバリエーションを確認し今までの技法をあてはめソロを書いたり演奏してみます。
- ⑨Bye bye black bird／上記と同様主旨。スライドしていくドミナント7コードとトニックディミニッシュの体験をします。
- ⑩Just friendsとBlue Bossa／上記と同様主旨。サブドミナントマイナーと部分的な転調を体験します。
- ⑪冬休み明けの進歩確認／アドリブにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
- ⑫You'd be so nice to come home to／曲の和声進行の編集可能なバリエーションを確認し今までの技法をあてはめソロを書いたり演奏してみます。
- ⑬Rhythm Change／上記と同様主旨。セカンダリードミナントやアップテンポ、様々な応用方法を体験します。
- ⑭模擬試験と採点／次週行うジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。曲は選択自由。
- ⑮譜面提出と実演（試験）／ジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

期末試験評価方法・評価基準

理解度、習得度を重要視し採点。アドリブリアルタイム実演は情報処理速度不足については重要視しませんが、慌てながらも音楽的成立を目指す作業内容を評価します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	宮崎隆睦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	サックス

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアーや、レコーディング、アレンジ、ミュージックプログラミング、ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動の実務経験があります。

授業内容

ジャズに限らずアドリヴをマスターするためには理論的側面を確実に理解しないといけません。ただ、それはそれほど難しいものではありません。まずは基本のスケール、ジャズの言語となるフレーズを少しずつ覚えていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードスケールを確実に覚えてスタンダード曲のアドリヴソロを演奏することを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①演奏、休止のアプローチについて
- ②メロディの引用について
- ③フレーズの長さ、密度について
- ④タイムフィールについて
- ⑤フェイクについて
- ⑥アプローチノート、経過音について
- ⑦試験（任意の楽曲でソロを演奏）

中間試験評価方法・評価基準

任意の楽曲でソロを演奏してもらいます。
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲分析、演奏①
- ⑨楽曲分析、演奏②
- ⑩楽曲分析、演奏③
- ⑪楽曲分析、演奏④
- ⑫楽曲分析、演奏⑤
- ⑬楽曲分析、演奏⑥
- ⑭楽曲分析、演奏⑦
- ⑮試験（任意の楽曲でソロを演奏）

期末試験評価方法・評価基準

授業で分析した中から任意の楽曲でソロを演奏してもらいます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

特記事項

学科名	ジャズポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター

担当科目に関する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、様々なコード進行の上でのメロディの作り方(ソロの取り方)を学びます。後期は更にビーバップ的なメロディの作り方を学び、よりコード進行が聞こえてくるようなソロを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3Q 代理コードのコードトーンを活用することで、コードのテンションの有効に使ったメロディを作り出すこと、が目標です。4Q はマイナーキィで、メジャーキィと同様な事ができるが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①代理コードを使ったソロアプローチについて。
- ②Key=C 上でコードの機能に注目し、代理コードのコードトーンを使い、テンションノートを活用したソロアプローチを学びます。
- ③Key=F 上でコードの機能に注目し、代理コードのコードトーンを使い、テンションノートを活用したソロアプローチを学びます。
- ④Key=Bb 上でコードの機能に注目し、代理コードのコードトーンを使い、テンションノートを活用したソロアプローチを学びます。
- ⑤Key=Eb 上でコードの機能に注目し、代理コードのコードトーンを使い、テンションノートを活用したソロアプローチを学びます。
- ⑥Key=Ab 上でコードの機能に注目し、代理コードのコードトーンを使い、テンションノートを活用したソロアプローチを学びます。

トを活用したソロアプローチを学びます。

⑦実技試験実施

指定したコード進行でソロをとってもらい、授業の理解度を評価します。

中間試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。

実技試験は、指定したコード進行でソロをとってもらい、その内容が授業に沿っているか、で評価します。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧マイナーキィでのコードトーンソロについて

⑨Key=Cmin 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑩Key=Fmin 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑪Key=Bbmin 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑫Key=Ebmin 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑬Key=G#min 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑭Key=C#min 上のダイアトニックコードを使ったコード進行上で、コードの構成音(コードトーン)を使ったソロアプローチを学びます。

⑮実技試験実施

指定したコード進行でソロをとってもらい、授業の理解度を評価します。

期末試験評価方法・評価基準

連続性の高い授業なので、出席を重視して採点します。採点の比率は下記参照。

実技試験は、指定したコード進行でソロをとってもらい、その内容が授業に沿っているか、で評価します。前期同様に出席を重視します。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション(key) II
担当講師名	石田衛
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ&キーボード

担当科目に関する実務経歴

講師は国内外の様々なジャズミュージシャンとのライブやレコーディングの経験を持ちます。

授業内容

インプロヴィゼーション I で学んだ基礎を生かし、分数コードを含む複雑なコード進行上での即興演奏の方法を学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

初見で複雑なコード進行を把握し、それにフィットしたメロディーを即興的に創造する能力を身に着ける。

授業計画（1回目から7回目）

- ①顔合わせ、授業内容の説明
- ②ペントナミック
- ③マイナーペントナミック
- ④メロディックマイナーのダイアトニック
- ⑤リディアン7thとオルタード
- ⑥スーパーロクリアン
- ⑦リディアンオーギュメント

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧トライアドを組み合わせる
- ⑨2トニック、4トニック、ディミニッシュ
- ⑩Central Park West
- ⑪ヘキサトニックとオーギュメント(Bitche's Brew)
- ⑫3トニックシステム(Have You Met Miss Jones)
- ⑬Giant Steps
- ⑭モード(So What)
- ⑮フリーインプロ

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション II
担当講師名	山本裕之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ベース

担当科目に関する実務経歴

ジャズピアニスト山中千尋の Trio ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に出演。多くのジャズライブ、レコーディングに参加している

授業内容

Autumn leaves、Blues を題材にメジャー、マイナーの II-V フレーズ、Blues Scale でのアプローチを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

題材にしたジャズ・スタンダードを実際に演奏してスムーズに Bass line が作れること。また Solo ではメジャー、マイナー II-V、Blues Scales、Turn around のリックなどをインプットする事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①7th コード上で使用される 3rd から ♯9th への動きや、クロマティック・ノートを学びます。
- ②Autumn leaves を題材にして、Major II-V (Cm7-F7) のソロの作り方を学びます。
- ③Major II-V を実際に演奏してアウトプットしていきます。
- ④Autumn leaves を題材にして、Minor II-V (Cm7-F7) のソロの作り方を学びます。
- ⑤Minor II-V を実際に演奏してアウトプットしていきます。
- ⑥short II-V 、Dorian Scale の作り方、リックを学びます。
- ⑦試験。スムーズに Bass line や Solo が作れること、取れる事を評価のポイントとします。

中間試験評価方法・評価基準

演奏内容（メジャー、マイナーII-Vで Solo が作れること）及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧12 小節 Blues (F ブルース)を題材にして、様々な walking bass のアプローチを学びます。
- ⑨メジャー、マイナーBlues Scales のアプローチをどのように使うと効果的かを学びます。
- ⑩Blues 4 度進行を題材にして、Blues Scales を実際に演奏してアウトプットしていきます。
- ⑪12 小節 Jazz Blues の様々なコード進行や、Turn around をアナライズしていきます。
- ⑫Jazz Blues の II-V や Turn around に焦点を当てて、実際に演奏していきます。
- ⑬Blues の様々なコード進行を題材に、様々な key で Analyze していきます。
- ⑭12 小節 Jazz Blues の様々なコード進行を題材に、様々な key でセッションをします。
- ⑮試験。スムーズに Bass line や Solo が作れること、取れる事を評価のポイントとします。

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（スムーズに Bass line を作れること、ブルージーなアプローチ、II-Vで Solo が作れること）及び授業での取り組みで評価します。連動性のある内容なので、出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーション(Drums) II
担当講師名	大井澄東
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム

担当科目に関する実務経歴

講師は Jazz、Latin、Brazilian、Funk 等、様々なジャンルでのライブ、コンサートツアー、レコーディングの実務経験があります。

授業内容

ヨーロッパのクラシックとアフリカのリズムが融合して生まれた現代のポップスをドラムセットでの演奏法という角度から学ぶ科目です。後期は Brazilian と AfroCuban の演奏法を学びます。基本から応用まで受講者のレベルに合わせて進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

Jazz の演奏法を一通り体験します。しっかり身に着けるには時間がかかるので、予習復習を欠かさず行いましょう。最大の目標はジャズに親しみ好きになる事です。好きになる事が最も効果的な上達法ですから。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Afro-Cuban 2-3/3-2 Son/Rumba クラーベ カスカラ・コンガ・トゥンバオ
- ② Afro-Cuban Drum での演奏に特化した Afro-Cuban Groove Songo/Mozambique
- ③ Afro-Cuban 6/8 Groove ポリリズムの基礎 Bembe
- ④ Afro-Cuban 様々な Afro-Cuban スタイル Cha-Cha Bolero Rumba
- ⑤ Samba サンバキック
- ⑥ Bossa Nova リムショットトレーニング
- ⑦ 試験 このクオーターで学んだスタイルの実演

中間試験評価方法・評価基準

授業への取り組み方で評価します。

出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ① Brazilian Samba Batucada～サンバにおけるドラムソロ Partido Alto
- ② Brazilian Baiao/Maracatu 北東部のリズムについて
- ③ Caribbean Calypso Reggae
- ④ Groove バックビート テンポとタイム
- ⑤ Groove Funky Grooves Funk～R&B～Hip Hop
- ⑥ Groove Fusion アプローチ Latin Groove と Funk の融合
- ⑦ Groove Linear Funk Drum'n'Bass
- ⑧ 試験 このクオーターで学んだスタイルの実演

期末試験評価方法・評価基準

授業への取り組み方で評価します。

出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	インプロヴィゼーションⅡ
担当講師名	須田晶子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	Jazz Vocal

担当科目に関連する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます

授業内容

秋期は基礎的な部分からより掘り下げて細かな部分の研究をしていきます。自分の歌にベースの部分を持ち、そこから色んな引き出しや対処法などを学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

様々なことを学び、沢山の曲をやることで得る経験から自分の嗜好を見つけ、演奏で大切な心の部分とつなげられるような演奏を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ジャンルや曲の雰囲気に沿った英語の発音を研究します。
- ②Scatの練習、他の楽器奏者とより交わされる方法を研究します。
メロディに沿ったソロの作り方・モチーフなど
- ③Scatの練習、他の楽器奏者とより交わされる方法を研究します。
コードに沿ったソロの作り方など
- ④歌詞のストーリーとフレーズの作り方がリンク出来るような方法を色々な角度から研究します。
- ⑤自分の苦手なものに対してとことん向き合い追求します。
- ⑥今までのまとめに加えてスキヤットを交えて一曲を完成させます。
- ⑦自分で選んだ曲を今まで学んできた経験と共に演奏してもらいます。

中間試験評価方法・評価基準

学ぶ意欲が感じられること、出席数、少しでもステップアップ出来ているかを主に評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧主にエンディングの素材を使ってコードに対してどの音で終わりにするか、それを自分でコントロールする練習をします。
- ⑨ボーカリストだからこそ出来る Vocalese の曲に挑戦します。
Moody's Mood For Love
- ⑩ボーカリストだからこそ出来る Vocalese の曲に挑戦します。
- ⑪声の響く場所にフォーカスして色々な placement を自分でコントロールするようにする練習をします。
- ⑫色々な人のスキヤットを聴いてどんな特徴があるのか研究し、更にコピーしてみます。
- ⑬実際にステージに立つ一連の動作や注意事項など色々な角度から研究します
- ⑭自分の今出来る最大限の要素を交えて演奏してみます。
- ⑮今まで学んできたことをできる限り発揮できるようなパフォーマンスをします。

期末試験評価方法・評価基準

学ぶ意欲が感じられること、出席数、少しでもステップアップ出来ているかを主に評価します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブル I
担当講師名	遠山拓志
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプログラミングの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。
スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。
クオーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やすよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。
MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：顔合わせ、授業内容の説明、まずはセッションしてみよう。
- ②Now's the Time:セッションに慣れる
- ③1クオーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ④Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑤Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑥Feel Like Makin' Love:Kid Jordan:Grazin' In The Grass:One more Once(前年例)
- ⑦中間試験：Live 形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。
出席：30%平常点：30%試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：1 クオーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨ 2 クオーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑪Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑫Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑬Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑭Got to be Real:Orange Sherbet:The Chicken:Candy(前年例)
- ⑮期末試験：Live 形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30% 平常点：30% 試験 40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅠ
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。
履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。
学生からの曲リクエストも隨時受け付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クローザー末のアンサンブル試験に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画（1回目から7回目）

- ① 自己紹介&ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：I Can't Turn You Loose）
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：My Mama Told Me So）
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Samba Do Marcos）
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Canptain Caribe）
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：You make me feel brand new）
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

1Q 末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかりと出来ているかチェックします。

(暗譜推奨です！) 勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Carnaval）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Get it on）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Getaway）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：La Yellow Head）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Bobs Jazz）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：雪の華）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

2Q 末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかり出来ているかチェックします。
(暗譜推奨です！) 勢いの有るステージングを目指します。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅠ
担当講師名	菅原潤子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はライブツアーサポート等の実績を積んでいます。

授業内容

様々な楽曲に取り組む中で、アンサンブル力を養っていきます。
1年間を通して、バンドとしても切磋琢磨し成長していきましょう。
※楽器の編成によって、楽曲は都度変更の可能性あり。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル試験において、ライブステージを意識したステージング、MC 等が出来るようになります。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① 自己紹介。授業内容の説明。
- ② Them Change
- ③ Get Up (I Feel Like Being A) Sex Machine
- ④ Pick Up The Pieces
- ⑤ MC 等も含めて試験に向けて流れを作って行きます。
- ⑥ 通しリハーサル
- ⑦ アンサンブル試験（ライブ形式）

中間試験評価方法・評価基準

授業の出席率、自主性、協調性。試験では、ライブステージを意識したステージング、MC 等。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 1 クオーター試験の反省会。授業内容の説明。
- ⑨ Starting Too Slow
- ⑩ September
- ⑪ Thank You (Falettinme Be Mice Elf Agin)
- ⑫ MC 等も含めて試験に向けて流れを作って行きます。
- ⑬ 通シリハーサル
- ⑭ 通シリハーサル
- ⑮ アンサンブル試験（ライブ形式）

期末試験評価方法・評価基準

授業の出席率、自主性、協調性。試験では、ライブステージを意識したステージング、MC 等。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブル I
担当講師名	笠原 康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

バークリー音楽院パフォーマンス科卒業後、歌手、シンガーのバックバンド、自己のバンド等において長い演奏経験を持っています。

授業内容

学生の希望する楽曲を編成に合わせてアレンジし、アンサンブルを完成させていく授業です。以下の授業計画は過去の授業の例です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

簡単そうな曲でも突き詰めると奥深いものがあります。完全コピーして間違えないというのは最初の段階。チームプレイ、インタープレイ、アドリブの持って行き方、エンターテイメント性、オリジナリティー、バンド内の頼れる人物になれるかなど、色々な要素を知ってもらえば、と思います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① (以下過去の講義内容) Shirokuma アンサンブルに慣れる。
- ② RED BARON キューの出し方など
- ③ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ④ アベイラブルノートスケールや使用方法など
- ⑤ Slaphappy ファンクの理解
- ⑥ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ⑦ イントロやアウトロの付け方

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ Trains ダイナミクスを出して単調さからの脱却
- ⑨ Someday my prince will come ポリリズムに慣れる。
- ⑩ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ⑪ スケール、アドリブについて
- ⑫ Speed of Love
- ⑬ キメを合わせる練習、主張するソロの作り方など
- ⑭ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ⑮ アレンジによって変化を出す方法

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブル I
担当講師名	須田晶子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます

授業内容

ボーカルが入ったアンサンブルの基礎を研究していくクラスです。ベーシックなリズム、ビート、メロディ、コード、構成、他の楽器と演奏するとどのようなことが変わってくるのか、アンサンブルで大切なことを見つけていきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

それぞれの楽器の技術向上はもちろん、アンサンブルをすることで一人で演奏しているときとは違う自分の役割、バランス、自分の音と人の音を聴く習慣、そして一曲の演奏の流れをみんなで作れるようにします。チームワークの大切さを体感します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①メンバー自己紹介、授業内容の説明、シンプルな曲で音合わせをします。
- ②歌の伴奏には欠かせないイントロ、エンディングの練習をします。
- ③同じ曲で Swing、Bossa Nova、Ballad などに変えて演奏してみます。
- ④曲が始まり終わるまでの合図などを練習します。
- ⑤曲中にフィールを変える練習をします。
- ⑥曲を決めステージングも含め完成度の高い内容に向けて研究します。
- ⑦実際のライブという意識をもって、3~4曲ステージで演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業へ取り組んでいるか、どんな状況でも一緒に演奏する人との音のバランスや意思疎通ができているか、ライブとして意識したステージができているかを見ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ワルツや6/8などのリズムに慣れる練習をします。
- ⑨歌ものでは欠かせないBalladやVerseの部分のRubatoを練習します。
- ⑩Funk/Soul/R&BなどJazzとはまた違う要素が必要になるグループ感を研究します。
- ⑪Bossa Nova/Sambaなどブラジルの曲を用いて基本的なリズムの特徴を研究します。
- ⑫ストップタイム、ブレイク、リフ、などの深い研究をします。
- ⑬色んな楽器編成のパターンで演奏してどのような変化が自分の演奏に起こるのかをより深く研究します。
- ⑭曲を決めステージングも含め完成度の高い内容に向けて研究します。
- ⑮実際のライブという意識をもって、3~4曲ステージで演奏します。

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業へ取り組んでいるか、どんな状況でも一緒に演奏する人との音のバランスや意思疎通ができるか、ライブとして意識したステージができるかを見ます。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅡ
担当講師名	遠山拓志
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はコンサートツアー、レコーディング、アレンジ及び譜面作成、ミュージックプログラミングの実務経験があります。

授業内容

主にパート譜面を使用した、ラージアンサンブル形式の授業です。
スタンダード曲をはじめ、様々なジャンルの楽曲にチャレンジします。
クオーター毎に行われるライブ形式の試験に向けて、アレンジを加えながら完成させていきます。エンターテインメント性やパフォーマンス等も重要になります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

演奏可能曲を増やすよう個人技術の向上、アンサンブル力の向上を目指します。
MCを含め、総合的に楽しいステージングが出来るように頑張りましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス：2クオーター試験の復讐、反省点の確認
- ②3クオーター試験に向けて選曲し演奏してみる。前期より曲の難易度が上がります。
- ③Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ④Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑤Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑥Chameleon: Get away: White Christmas(前年例)
- ⑦中間試験：Live 形式で発表

中間試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と
実技試験の内容で総合的に判断します。
出席：30% 平常点：30% 試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ガイダンス：3 クオーター試験の復讐、反省点の確認
- ⑨4 クオーター試験に向けて選曲し演奏してみる。
- ⑩Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑪Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑫Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑬Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑭Why Not!:September:All Blues:Close to you:Lovein' you(前年例)
- ⑮期末試験：Live 形式で発表

期末試験評価方法・評価基準

出席率、向上心、積極性、授業態度、課題の消化率等の平常点と実技試験の内容で総合的に判断します。

出席：30% 平常点：30% 試験 40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅡ
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

色々なジャンル・スタイルの楽曲を演奏する事を通して、アンサンブルの基礎を学びます。様々なスタイルに合ったプレイスタイル、テクニックを学び、アドリブプレイに必要なジャズポピュラー理論や、実際使うフレーズ集も含め学習して行きます。
履修学生の楽器編成、ボーカルの有り無しで取り上げる楽曲も変更があります。
学生からの曲リクエストも隨時受け付けます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

クオーター末のアンサンブル試験に向け、パフォーマンス含めてミニライブステージをやって行きます。見る者を引き付ける演奏技術、テンポ良いステージ MC、精度の高いアンサンブルを目指し、ダイナミクスに富んだ「魅せる」ステージングを全員で目指しましょう！

授業計画（1回目から7回目）

- ① ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：水色の雨）
- ② ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：ロッキーのテーマ）
- ③ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：マッカーサーパーク）
- ④ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Copernicus）
- ⑤ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Freedom At Midnight）
- ⑥ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習。
- ⑦ ゲネプロ

中間試験評価方法・評価基準

3Q 末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかりと出来ているかチェックしま

す。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：I want you back）
- ⑨ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：5 匹の子ブタとチャールストン）
- ⑩ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Antigua Boy）
- ⑪ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Sined sealed）
- ⑫ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：You are everything）
- ⑬ ジャズポピュラーの楽曲の演奏（例：Brazil）
- ⑭ 秋学期でやった曲の中から試験発表に向けて本番に向けてステージ練習
- ⑮ ゲネプロ

期末試験評価方法・評価基準

4Q 末試験ライブに向けて、チーム一丸となって総合的にパフォーマンス力がアップしているかチェックします。全員とのアイコンタクトがしっかりと出来ているかチェックします。（暗譜推奨です！）勢いの有るステージングを目指します。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブル II
担当講師名	菅原潤子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はライブツアーサポート等の実績を積んでいます。

授業内容

様々な楽曲に取り組む中で、アンサンブル力を養っていきます。
1年間を通して、バンドとしても切磋琢磨し成長していきましょう。
※楽器の編成によって、楽曲は都度変更の可能性あり。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブル試験において、ライブステージを意識したステージング、MC 等が出来るようになります。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① 自己紹介。授業内容の説明。
- ② Them Change
- ③ Get Up (I Feel Like Being A) Sex Machine
- ④ Pick Up The Pieces
- ⑤ MC 等も含めて試験に向けて流れを作って行きます。
- ⑥ 通しリハーサル
- ⑦ アンサンブル試験（ライブ形式）

中間試験評価方法・評価基準

授業の出席率、自主性、協調性。試験では、ライブステージを意識したステージング、MC 等。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

授業計画（8回目から 15回目）

- ⑧ 1 クオーター試験の反省会。授業内容の説明。
- ⑨ Starting Too Slow
- ⑩ September
- ⑪ Thank You (Falettinme Be Mice Elf Agin)
- ⑫ MC 等も含めて試験に向けて流れを作って行きます。
- ⑬ 通シリハーサル
- ⑭ 通シリハーサル
- ⑮ アンサンブル試験（ライブ形式）

期末試験評価方法・評価基準

授業の出席率、自主性、協調性。試験では、ライブステージを意識したステージング、MC 等。

出席：50% 平常点：25% 試験：25%

特記事項

学科名	ジャズポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅡ
担当講師名	笠原 康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

バークリー音楽院パフォーマンス科卒業後、歌手、シンガーのバックバンド、自己のバンド等において長い演奏経験を持っています。

授業内容

学生の希望する楽曲を編成に合わせてアレンジし、アンサンブルを完成させていく授業です。以下の授業計画は過去の授業の例です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

簡単そうな曲でも突き詰めると奥深いものがあります。完全コピーして間違えないというのは最初の段階。チームプレイ、インターパレイ、アドリブの持って行き方、エンターテイメント性、オリジナリティー、バンド内の頼れる人物になれるかなど、色々な要素を知ってもらえば、と思います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① (以下過去の講義内容)つつみこむように ヴォーカルとのアンサンブルに慣れる。
- ② Keyshia Cole – Love バラードのバックング
- ③ オリジナル楽曲 複雑なリズムに対応する
- ④ Tamashii グループを付ける。
- ⑤ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ⑥ 全曲の合わせと調整
- ⑦ 授業内ライブ

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 灯台 他のプレイヤーを良く聞いてインタープレイする
- ⑨ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど。
- ⑩ 君じゃなきゃダメみたい コーラスもとってみよう。
- ⑪ Ain't No Other Man
- ⑫ スケール・理論・アレンジ・サイズ調整・イントロ・アウトロなど
- ⑬ 1年間の総まとめ
- ⑭ 全曲の合わせと調整
- ⑮ 全曲の合わせと調整

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スタイルアンサンブルⅡ
担当講師名	須田晶子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます

授業内容

秋期では少し難易度を上げた曲に挑戦します。アンサンブルの技術、ステージングを意識した内容、セットリストを効果的に演奏する方法にも取り組んで行きます。それぞれがアイディアを出して想像力を高めチャレンジします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

色々な曲を経験することで瞬時に対応できるようにし、完成度のより高い演奏ができるようになります。そしてあらゆるバランスを学びながらも自分のキャラクターや嗜好は何かを見つけ出せるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Blues feel の曲を用いてメロディをとる楽器のリズム、リズム隊が出すグループを研究します。
- ②その場でアイディアを出し合いラフアレンジをしていく練習です。
- ③皆さんがあれぞれ好きなジャズナンバー、もしくはジャズに関係しているサウンドの曲を選んで演奏してみます。
- ④皆さんがあれぞれ好きなジャズナンバー、もしくはジャズに関係しているサウンドの曲を選んで演奏してみます。
- ⑤Ballad の3拍子の曲を練習します。
- ⑥曲を決めステージングも含め完成度の高い内容に向けて研究します。
- ⑦実際のライブという意識をもって、3~4曲ステージで演奏します。

中間試験評価方法・評価基準

積極的に授業へ取り組んでいるか、どんな状況でも一緒に演奏する人との音のバランスや意思疎通ができているか、ライブとして意識したステージができているかを見ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧メロディに沿って決められたトリッキーなリフやキメに対しての対応力を身につけます。
- ⑨Contemporary Jazz を研究。同じフィールでもサウンドは何が違うのか、色々な方向から研究します。
- ⑩Vocalese/VoiceなどのJazz Vocalの特殊なジャンルに挑戦します。
- ⑪今までの曲の内容をより深く自分のものにして行きます。
- ⑫変拍子に挑戦です。
- ⑬変拍子に挑戦です。
- ⑭曲を決めステージングも含め完成度の高い内容に向けて研究します。
- ⑮一年を締めくくる最後のライブです。一味違う自分を発揮できるように頑張りましょう！

期末試験評価方法・評価基準

積極的に授業へ取り組んでいるか、どんな状況でも一緒に演奏しする人との音のバランスや意思疎通ができているか、ライブとして意識したステージができているかを見ます。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションI
担当講師名	宮本裕史
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春学期はクラス内での音楽的基礎知識を共有することに重点を置きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ジャズアンサンブルの基礎知識 1／各楽器の役割や一般的なジャズアンサンブルでの曲の構成について解説。共通の認識を増やします。
- ②鑑賞と模倣 1／前回の解説と照らし合わせながら過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習 1／簡単な和音進行の曲でソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習 1／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習をします。
- ⑤アドリブ中の各楽器の練習 2／第3回の延長。また、第7回の日に行う試験曲を決め、その際の方針を相談し合います。
- ⑥試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すこと目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣2／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩アドリブ中の各楽器の練習3／各楽器の役割、ソロ、ベースのウォーキング、ピアノのコンピング、ドラムのレガートなどを反復練習をします。
- ⑪定番曲テーマアンサンブル練習2／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に授業します。
- ⑫様々なテンポの練習／バラード以外の全テンポを経験。また夏休み前に各生徒の課題（宿題ではない）を告げそれぞれの攻略方法を考えます。
- ⑬夏休み明けの進歩確認／長期休暇中にどれだけ復習できたかを確認します。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生は基礎理解度合、上級生は上達度合を重視します。出席：40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	ジャズポピュラー学科
科目名	ジャズセッション I
担当講師名	寺屋ナオ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。授業計画の曲目は例です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

シンプルな楽曲を使って、セッションに慣れるのが 1Q の目標です。2Q は様々なリズムスタイルの要素を取り入れるようになるのが目標です。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①Blues を題材に、セッションの基本的な演奏法を学びます。
- ②Watermelon manなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
- ③Chitlins con Carneなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
- ④The sidewinderなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
- ⑤The chickenなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
- ⑥実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
- ⑦ライブ形式の実技試験を行います。

中間試験評価方法・評価基準

出席を重視し、60%は出席点で採点します。

リハーサルでの立ち振る舞いや、実技試験での演奏内容で残り 40%の評価をします。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧様々なリズムスタイルの楽曲を練習します。

⑨Back at the chicken shackなどを題材に、シャッフルの楽曲を練習します。

⑩Isn't she lovelyなどを題材に、シャッフルの楽曲を練習します。

⑪Sugarなどの楽曲を題材に、Swingのリズムの楽曲を練習します。

⑫Blue bossaなどを題材に、ボサノバのリズムの楽曲を練習します。

⑬オルフェのサンバなどを題材に、サンバのリズムの楽曲を練習します。

⑭実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。

⑮ライブ形式の実技試験を行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席を重視し、60%は出席点で採点します。

リハーサルでの立ち振る舞いや、実技試験での演奏内容で残り 40%の評価をします。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッション I
担当講師名	藤本暁子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

ジャズのセッションには、色々な決まりが実在します。リズム、テンポの提示、ソロの回し方、取り方、イントロ&エンディングの設定など、まず、基本的なことを実践し、身につけていき、それから応用してたくさんの曲にチャレンジしていきたいと思います。その場でどんどんアンサンブルを創り上げていく上で、どういう言葉や作法や技術が必要なのかを、実践しながら学んでいきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一人一人が自分の楽器に向かい、責任を持ち、全員で一つの音楽を創ることができているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ②Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ③Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ④Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑤Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑥Swing のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑦試験：クラス全員で発表する。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく發揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。

- ⑨Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑩Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑪Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑫Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑬Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑭Swing & Bossa Nova のリズムにチャレンジ：クラス全員でセッションする。
- ⑮試験：クラス全員で発表する。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく發揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅠ
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

3～4リズムと管楽器で、いつでもどこに行っても、すぐに誰とでもジャムセッションができるように、いろいろなスタンダードナンバーを知り、テーマをしっかり演奏出来て、アドリブも取れるようになるための授業です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

はじめに、Tone をしっかりさせる練習をします。管楽器はロングトーン、リズムは一つ一つの音をしっかり出す練習を繰り返し行います。曲はまずブルース。いろいろなキーで、いろいろなビートで、ブルース形式の曲を覚えましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①授業の最初に、必ずブルースでロングトーンとリズム練習をします。ブルースに慣れていきます。
- ②ブルースのコード進行を覚えてしまいましょう。ほとんどのブルースはコード進行は同じです。
- ③C、F、B♭キーのブルースのコード進行は暗譜しましょう。8分音符の練習もします。
- ④スウィングの他に、シャッフルやスロービートのノリのブルースにもチャレンジ。
- ⑤同じキーでも、たくさんのスタンダードナンバーとしてのブルースがあります。いろいろなキーのブルースを練習します。

- ⑥試験に向けて、練習してきたブルースやスタンダードナンバーを仕上げていきます。
⑦課題曲のテーマとアドリブ、のびのびとしっかり演奏しましょう。

中間試験評価方法・評価基準

テーマがちゃんと演奏出来ているか、アドリブにチャレンジ出来たか、そして、今クオーターで練習してきた、いい Tone で、いいノリのビートで、のびのびと演奏しているかを評価します。出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧のクラスは徹底的にブルースを演奏して、基礎力をつけていきます。繰り返し、8分のノリを練習。
⑨様々なスタンダードナンバーを演奏していきます。演奏する前に、まず、名曲を聴きます。
⑩ブルースでロングトーン、8分ノリの練習をした後は、スタンダードナンバーをどんどん演奏していきます。
⑪8分ノリは、曲のテンポによって変わってきます。速い曲、ミディアム、スローと、いろいろなテンポでチャレンジです。
⑫同じ曲でも、ビートビよって演奏の仕方が変わります。4ビートスウィングだけでなく、ボサノバやサンバでも演奏してみます。
⑬試験で演奏する曲を、みんなで決めます。どんな曲を演奏したいか、どのように演奏したいか、考えましょう。
⑭みんなで決めた曲のテーマとアドリブ、繰り返し、しっかり練習しましょう。
⑮テーマをしっかり演奏し、アドリブにもチャレンジ！元気にのびのび演奏してください。

期末試験評価方法・評価基準

スタンダードナンバーを演奏する時は、とにかくテーマをきっちり演奏することが大切です。テーマがちゃんと演奏出来ているか、そして、アドリブをのびのび楽しく演奏しているかを採点します。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

いろいろなスタンダードナンバーを知ることが大切です。演奏だけでなく、出来るだけたくさんの方の名演奏を聴きましょう。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッション I
担当講師名	石田衛
学期	春
授業の形態	実技
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師は国内外の様々なジャズミュージシャンとのライブ、ツアーや、レコーディングの経験を持ちます。

授業内容

この科目では小編成でブルースやジャズスタンダードを演奏しながら、バンド内での自己の役割や、共演者とのコミュニケーションの取り方を学んでいきます。またスイングのリズムを中心に様々なリズムを体感しながら学びます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

まずはジャムセッションに慣れる事が目標です。そして共演者の音をよく聴きながら演奏する事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブルース（ミディアム）
- ②ブルース（スロー）
- ③ブルース（ミディアムアップ）
- ④リズムチェンジ（ミディアムアップ）
- ⑤リズムチェンジ（アップ）
- ⑥課題曲の決定とリハーサル
- ⑦実技試験（課題曲の合奏）

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧イントロとエンディング 1
- ⑨イントロとエンディング 2
- ⑩ジャズスタンダード
- ⑪ジャズスタンダード
- ⑫ジャズスタンダード
- ⑬ジャズスタンダード
- ⑭課題曲の決定とリハーサル
- ⑮実技試験（課題曲の合奏）

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッション I
担当講師名	山本裕之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

ジャズピアニスト 山中千尋の Trio ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に出演。多くのジャズライブ、レコーディングに参加している

授業内容

ジャズ・スタンダードを題材にジャムセッションを行い即興的な演奏を学びます。スタンダードが持つ伝統的なイントロやエンディング、リズム等を学びます。また、それらを敢えて取り入れないセッションも行い即興性、自発性、協調性を磨きます。曲は変更する可能性があります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

題材に取り上げたスタンダード曲は、メロディ、コード進行をなるべく暗譜します。それぞれのスタンダード曲が持つ、伝統的なイントロやエンディング、リズム等を覚え、且つイレギュラーな場合でも即興性、自発性、音での会話ができる事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Watermelon man 等
- ②Work song, Summertime 等
- ③Days of wine&roses 等
- ④Autumn Leaves 等
- ⑤Bye bye blackbird 等
- ⑥試験で演奏する曲 2曲ほど
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏内容（スムーズにメロディ、良いソロが取れていること。安定していて、且つ刺激的な伴奏ができていること。音での会話が成り立っていること等）及び授業での取り組みで評価します。出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧On green dolphin street 等
- ⑨You'd be so nice to come home to 等
- ⑩There will never be another you 等
- ⑪Yardbird suite 等
- ⑫So what 等
- ⑬Joy spring 等
- ⑭試験で演奏する曲 2曲ほど
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（スムーズにメロディ、良いソロが取れていること。安定していて、且つ刺激的な伴奏ができていること。音での会話が成り立っていること等）及び授業での取り組みで評価します。出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッション I
担当講師名	関谷友貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経験

自己のジャズバンド TRI4TH や黒船の活動や、ジャズ系アーティストのライブサポートなど

授業内容

この科目では、ジャズスタンダードナンバーを中心にレパートリーを増やし、アイコンタクトなどセッションで必要な会話力を磨きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アイコンタクト

定番のジャズスタンダードを 10 曲暗譜で演奏出来る

授業計画（1回目から 7回目）

- ①オリエンテーション&セッションマナー
- ②ジャズブルース (Straight No Chaser)
- ③リズムチェンジ (OLEO)
- ④8 ビート (Watermelon Man)
- ⑤16 ビート (The Chicken)
- ⑥ボサノヴァ (Blue Bossa)
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。コードに対して正しい音が使っているか、アイコンタクトなどセッションで必要なジャズマナーに則った演奏がされているかを評価します。評価項目（試験

40%、出席 60%)

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧シャッフル (Isn't She Lovely)
- ⑨モーダル① (Cantalope Island)
- ⑩マイナーブルース (Mr.P.C)
- ⑪3拍子 (Someday Prince Will Come)
- ⑫モーダル② (So What)
- ⑬バラード (Misty)
- ⑭テスト対策
- ⑮テスト

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。モードに対して正しい音が使っているか、暗譜でテーマやインプロができるかを評価します。評価項目（試験 40%、出席 60%）

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	宮本裕史
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ&ポピュラーにおけるアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業内容

ジャムセッションに必要な知識と技術を短期間で吸収し、並行して即興主体のジャズアンサンブルに於いて必要とされる様々な技法や常識を学んでいきます。また、専攻実技や各授業で得た知識や技術を試す一番身近な実験の場としての役割も大切にしながら進行していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

秋学期はジャズ&ポピュラーにおける総合的なアンサンブル技術を向上することを目的とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ②鑑賞と模倣 3／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ③アドリブ中の各楽器の練習 4／各楽器個別の課題を決めアンサンブルを通してそれを解決する反復練習をします。
- ④定番曲テーマアンサンブル練習 3／全員で対応可能な範囲内のジャズスタンダード曲テーマ部分の練習を中心に進行します。
- ⑤ダイナミクス／抑制が利き、十分に間(ま)を取った静かな演奏と、爆発的な激しい演奏の双方の研究をします。
- ⑥試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑦試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すこと目標に講師陣の前で演奏発表します。

中間試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともに上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧試験反省会／試験の際の演奏を聞き返し、各自反省点を述べ、改善の実験をします。
- ⑨鑑賞と模倣 4／過去の名演などを鑑賞・分析。参考に出来そうな部分を抽出し再現実験します。
- ⑩違うリズム／ラテンやブラジル音楽、ファンクなどのリズム、または3拍子などを演奏し、今までの学習からの応用を試します。
- ⑪冬休み明けの進歩確認／アンサンブルにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
- ⑫情報交換会／学外のジャムセッションや音楽活動経験など、各生徒が体験した情報を共有。講師が経験したエピソードも披露します。
- ⑬アドリブ中の各楽器の練習 5／各楽器個別の課題を決め、様々な曲の合奏を通してそれを解決する反復練習をします。
- ⑭試験曲準備／試験で行う曲の反復練習。各レベル、各楽器に合わせた難易度設定を設けその攻略ポイントを解説します。
- ⑮試験・ジャズ合奏。／今までの学習を生かしつつ自由な発想を試すことを目標に講師陣の前で演奏発表します。

期末試験評価方法・評価基準

下級生・上級生ともにアンサンブルに対する意識の深さ、そして以前からの上達度合を重視します。出席40%、平常点20%、試験40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。授業計画の曲目は例です。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3Q はスタンダードソングで、イントロやエンディングなどを含めてスムーズにセッションできるようになる事が目標です。4Q は、より難易度の高い曲をセッションできるようになる事が目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①I'll close my eyesなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
- ②It could happen to youなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
- ③Alone togetherなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
- ④スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
- ⑤スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
- ⑥実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
- ⑦ライブ形式での実技試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

出席を重視し、60%は出席点で採点します。

リハーサルでの立ち振る舞いや、実技試験での演奏内容で残り 40%の評価をします。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧Confirmationなどの楽曲を題材に、Bebop 楽曲のセッションを練習します。

⑨Donna leeなどの楽曲を題材に、Bebop 楽曲のセッションを練習します。

⑩Israelなどの楽曲を題材に、Modan Jazz 楽曲のセッションを練習します。

⑪So whatなどの楽曲を題材に、Mode Jazz 楽曲のセッションを練習します。

⑫Strasbourg saint denisなどの楽曲を題材に、Jazz funk 楽曲のセッションを練習します。

⑬Nica's dreamなどの楽曲を題材に、Hard bop 楽曲のセッションを練習します。

⑭実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。

⑮ライブ形式での実技試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

出席を重視し、60%は出席点で採点します。

リハーサルでの立ち振る舞いや、実技試験での演奏内容で残り 40%の評価をします。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	藤本暁子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ジャズピアニストとして演奏活動を行なっております。

授業内容

ジャズのセッションには、色々な決まりが実在します。リズム、テンポの提示、ソロの回し方、取り方、イントロ&エンディングの設定など、まず、基本的なことを実践し、身につけていき、それから応用してたくさんの曲にチャレンジしていきたいと思います。その場でどんどんアンサンブルを創り上げていく上で、どういう言葉や作法や技術が必要なのかを、実践しながら学んでいきます

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

一人一人が自分の楽器に向かい、責任を持ち、全員で一つの音楽を創ることができているかどうか。

授業計画（1回目から7回目）

- ①自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ②自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ③自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ④自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑤自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑥自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑦試験：クラス全員で発表する。

中間試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。

- ⑨自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑩自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑪自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑫自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑬自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑭自主的に曲を出し合う：クラス全員でセッションする。
- ⑮試験：クラス全員で発表する。

期末試験評価方法・評価基準

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく發揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

出席：40% 平常点：40% 試験：20%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

テーマをしっかりと演奏することにかなり慣れてきたことだと思います。今度はどうやってもっとかっこ良くアドリブ演奏できるか考えていきます。イントロ、エンディングの持つべき方も勉強していき、セッションで楽しく演奏する力をつけていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

かっこいいアドリブ演奏するための近道はありません。が、世の中にはたくさんの名演奏が残されています。あなたのジャズのアイドルは誰ですか？是非コピーしてください。この授業では、コピーのやり方を学び、そして演奏への反映の仕方にチャレンジします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（1回目から7回目）

- ①ジャズの基本曲、ブルースの他にリズムチェンジの基本を知りましょう。
- ②リズムチェンジの曲も、ほぼコード進行は同じです。コードは暗記してしまいましょう。
- ③リズムチェンジの名曲も、知っておいたほうがいい曲がたくさんあります。サビ部分の違いを知りましょう。
- ④ブルースには、メジャーとマイナーの曲があります。今回はマイナーブルースのコード進行を覚えましょう。
- ⑤名曲を知ることはとても大切です。マイナーの曲はけっこう取り組みやすいかも。たく

さん演奏しましょう。

⑥試験曲の練習を何度も繰り返して暗記します。アドリブもしっかりやりましょうね。

⑦選んだ曲をしっかり演奏しましょう。

中間試験評価方法・評価基準

カウント、イントロ、テーマ、アドリブ、4～8バース、テーマ、エンディングと、一曲をしっかり演奏できているかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧スタンダードナンバーを、作曲家別に研究してみましょう。かっこいい箇所を1フレーズコピーしてみましょう。

⑨フレーズのコピーをどんどんていきましょう。たくさんコピーして、アドリブでここでというときに使ってみましょう。

⑩コールポーターやガーシュインやエリントンやなどなど、スタンダードナンバーを知り、フレーズコピーもしましょう。

⑪少し難しい曲にもチャレンジ！テーマを覚えて演奏すること自体が、フレーズとして使えることを知りましょう。

⑫様々なスタンダードナンバーの中から、演奏したい曲を決め、みんなでどう演奏するか相談して決めます。

⑬まず、テーマを暗記すること。ソロはできれば自由に演奏したいところですが、考えて決めてもいいです。

⑭繰り返し練習。練習中に、いろんなフレーズやビートを思考錯誤してチャレンジしてみてください。

⑮選んだ曲をしっかり演奏しましょう。

期末試験評価方法・評価基準

セッションとして成り立つ演奏ができたか、テーマ、アドリブ、イントロ、エンディング、そして何より、仲間と一緒に、楽しんで演奏できたかどうかをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

どんな時でも誰とでも楽しく演奏出来るのがジャズの魅力です。いろいろな曲にチャレンジしていってください。そのためにも、毎日の練習が大切になりますね。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッション II
担当講師名	石田衛
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は国内外の様々なジャズミュージシャンとのライブ、ツアーや、レコーディングの経験を持ちます。

授業内容

この科目ではジャズセッション I で学んだ事を生かし、複雑なコード進行や変則的な小節数を持つ、やや難易度の高い楽曲に挑みます。また様々な

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

共演者の音を良く聴きながらも依存しないで演奏する事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① Ballad (My One And Only Love 等)
- ②Fast Swing(Cherokee 等)
- ③Waltz (Up Jumped Spring 等)
- ④Bossa Nova (Wave 等)
- ⑤Shuffle (Isn't She Lovely 等)
- ⑥課題曲の決定とリハーサル
- ⑦実技試験（課題曲の合奏）

中間試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視し

ます。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Straight 8th(Falling Grace 等)
- ⑨Funk(Cissy Strut 等)
- ⑩コード進行の複雑な曲(Upper Manhattan Medical Group 等)
- ⑪フォームが変則的な曲(Stablemates 等)
- ⑫分数コードを用いる曲(Dolphin Dance)
- ⑬モード(So What 等)
- ⑭課題曲の決定とリハーサル
- ⑮実技試験（課題曲の合奏）

期末試験評価方法・評価基準

授業内容の理解、取り組み方で評価します。また、連続性のある内容なので出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	山本裕之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

ジャズピアニスト 山中千尋の Trio ベーシストとして NHK 総合「あさイチ」、テレビ朝日『題名のない音楽会』、BS ジャパン「おんがく交差点」等に出演。多くのジャズライブ、レコーディングに参加している

授業内容

ジャズ・スタンダードを題材にジャムセッションを行い即興的な演奏を学びます。スタンダードが持つ伝統的なイントロやエンディング、リズム等を学びます。また、それらを敢えて取り入れないセッションも行い即興性、自発性、協調性を磨きます。曲は変更する可能性があります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

題材に取り上げたスタンダード曲は、メロディ、コード進行をなるべく暗譜します。それぞれのスタンダード曲が持つ、伝統的なイントロやエンディング、リズム等を覚え、且つイレギュラーな場合でも即興性、自発性、音での会話ができる事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Oleo, Good bait 等
- ②But not for me 等
- ③Star eyes 等
- ④Seven steps to heaven 等
- ⑤I'll close my eyes 等
- ⑥試験で演奏する曲 2曲ほど
- ⑦試験

中間試験評価方法・評価基準

演奏内容（スムーズにメロディ、良いソロが取れていますこと。安定していて、且つ刺激的な伴奏ができていること。音での会話が成り立っていること等）及び授業での取り組みで評価します。出席も重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Blue monk 等
- ⑨Speak low I remember you 等
- ⑩Candy, Caravan 等
- ⑪Ornithology 等
- ⑫Stable mates 等
- ⑬Moment's notice 等
- ⑭試験で演奏する曲 2曲ほど
- ⑮試験

期末試験評価方法・評価基準

演奏内容（スムーズにメロディ、良いソロが取れていますこと。安定していて、且つ刺激的な伴奏ができていること。音での会話が成り立っていること等）及び授業での取り組みで評価します。出席も重視します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセッションⅡ
担当講師名	関谷友貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経験

自己のジャズバンド TRI4TH や黒船の活動や、ジャズ系アーティストのライブサポートなど

授業内容

この科目では、ジャズスタンダードナンバーを中心にレパートリーを増やし、アイコンタクトなどセッションで必要な会話力を磨きます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アイコンタクト

定番のジャズスタンダードを 10 曲暗譜で演奏出来る

授業計画（1回目から 7回目）

- ①グルーヴチェンジ
- ②ファンク (Pick Up The Pieces)
- ③ラテンフュージョン (Spain)
- ④ストレート 8th (Maiden Voyage)
- ⑤ヘッドアレンジ
- ⑥テスト対策
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。グルーヴに対して正しく演奏出来ているか、イントロやエンディングなどジャズマナーに則った演奏がされているかを評価します。評価項目（試験 40%、出

出席 60%)

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧転調 (All The Things You Are)
- ⑨ビバップ (Donna Lee)
- ⑩変拍子 (Take Five)
- ⑪フィールチェンジ (On Green Dolphin St.)
- ⑫ユニゾン (Red Baron)
- ⑬マルチトニック (Giant Steps)
- ⑭テスト対策 3
- ⑮テスト

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。スタイルに対して正しい演奏であるか、暗譜でテーマやインプロができるかを評価します。評価項目（試験 40%、出席 60%）

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	プレゼンテーションⅠ
担当講師名	大井澄東
学期	通年
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はジャズ・ポピュラージャンルにおける、演奏家としての活動、音楽教室講師などの実務経験を持ちます。

授業内容

学校行事や学科主催催事の事前準備や作業、卒業後にミュージシャン、講師などの職に就く際に必要になるプロフィール作成や仕事を受ける際の注意点、実際の仕事の進め方、オーディションなどで自分をプレゼンテーションする際に注意すべき事項など例を追って指導していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自己の音楽活動、就職活動における適切な資料作成とプレゼンテーションの仕方を知り、身につけます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 学則と学科ローカルルールについて
- ② 各授業の説明と繋がり
- ③ 個人面談①
- ④ 個人面談②
- ⑤ 試験週間について
- ⑥ 実技試験の意義
- ⑦ 全授業、出席再確認

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ① 前期を振り返って

- ② オーディションを受けよう（夏編）
- ③ 夏のイベントについて①
- ④ 夏のイベントについて②
- ⑤ 夏休みの過ごし方
- ⑥ 授業内試験、専攻実技試験のスケジュール
- ⑦ セッション、アンサンブル試験スケジュール
- ⑧ 試験後のスケジュール確認

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンス I
担当講師名	宮崎 明生
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

管楽器を演奏する為の基礎、アンプッシュア、呼吸法、様々なアーティキュレーションを学びます。ロングトーンに始まり、様々なコードスケールやフレーズパターンを学びます。

多くのジャンルの楽曲を扱いますので、ポピュラー全般に渡り音楽理論も同時に学んで行きます。コードアナライズが出来、コードスケールを把握し、アドリブ演奏が自由自在にこなせるスキルを付けて行きましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1&2 クォーターは、数ある種類のリズム、グループを知り、それに対する歌い方、アーティキュレーションを理解し、音楽的視野を広めて行く事を到達目標とします。
同時に初步的なポピュラー音楽理論も徐々に導入して行きます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンスと自己紹介、一年間の流れの説明。自己紹介も表現の一つです！魅力的な紹介をしましょう！
- ② 8ビートとブルーススケール Watermelon Man の演奏。Blues Scale 初級
- ③ Shuffle のリズム Isn't She Lovely の演奏（強めのアタック）正確なリズム、グループ感を養う
- ④ コードアナライズ Isn't She Lovely のアナライズと演奏（アドリブの初歩）
- ⑤ ボサノバ BlueBossa（マイナーキーのコードアナライズ）
- ⑥ BlueBossa をリズムを変えて演奏してみる。
- ⑦ 1クォーターで演奏した楽曲の中から選曲し、アドリブを含めた演奏をする。

中間試験評価方法・評価基準

初歩からのスタートとなるポピュラー音楽理論を一から学んで行きます。
1 クオーターはまずコードの成り立ち、初歩のコードスケールをしっかりと把握しているかチェックします。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ジャズ曲のアナライズ初級 A11 of me アナライズとコードスケール
- ⑨ ジャズ曲のアドリブ A11 of me の演奏 リズム替え。
- ⑩ セッションの定番 F Blues 曲を取り上げ、良く有るフレーズを検証して行く。
- ⑪ Fly me to the moon の演奏 IIm7—V7 フレーズと Blues Scale
- ⑫ There will never be another you のアドリブ。
- ⑬ The Chicken の演奏 4度進行の 7th コードに追従する。
- ⑭ 枯葉のアナライズとソロ構築
- ⑮ 2 クオーターで演奏した楽曲の中から選曲し、アドリブを含めた演奏をする。

期末試験評価方法・評価基準

徐々にブルーススケールを中心とした曲から II_m7—V7 を基調としたジャズの要素の多い楽曲も取り入れて行きます。まずアドリブ演奏する事への苦手意識を取払い、シンプルでも思い切りプレイ出来る事を目指しましょう。
楽曲のスケールをしっかりと把握しているかチェックします。
評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンス I
担当講師名	関谷友貴
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のジャズバンドでの活動。

授業内容

この科目では、セオリーの授業と連動して、自分の楽器で音を確認しつつ、音楽理論をマスターします。1クオーターはインターバルとメジャーダイアトニックとトライアド、2クオーターは4和音のアルペジオとジャズブルースを取り上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

コードシンボルを見て、適切なアルペジオが演奏できる。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス／インターバル導入、全音(maj2)と半音 (min2)の違い
- ②インターヴァル (maj3,min3,P4,P5) ／メジャートライアド&マイナートライアド
- ③Circle of 5th の重要性
- ④ダイアトニックコード導入 (メジャーKey)
- ⑤インターヴァル (maj6,min6,maj7,min7)
- ⑥Augment と Diminish のインターヴァルとトライアド、sus4 コード
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。上昇&下降のインターヴァルを理解して、自分の楽器で演奏できる

かどうかを評価します。 (テスト 40%、出席 60%)

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧4 和音のコード① (メジャーセブンスコード、マイナーセブンスコード)
- ⑨4 和音のコード② (セブンスコード、ハーフディミニッシュコード) & II-V
- ⑩Jazz Blues in F (Straight no chaser などの Jazz Blues のアルペジオを分析&演奏)
- ⑪Jazz Blues in Bb (Tenor madness などの Jazz Blues のアルペジオを分析&演奏)
- ⑫アルペジオ展開① (ルート以外の度数からコードを展開させてアルペジオ分析&演奏)
- ⑬アルペジオ展開② (ルート以外の度数からコードを展開させてアルペジオ分析&演奏)
- ⑭テンションノート導入
- ⑮テスト

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。曲のテーマをしっかりと歌えているか、コードにあったアルペジオを演奏できているかを評価します。 (テスト 40%、出席 60%)

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンスⅠ
担当講師名	松永加津子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

ジャズ演奏をするための理論を学習します。春学期はまずコードトレーニング、基本4声で考えます。テンションコードの構成やポジションも身につけていきます。また、主要3和音、ダイアトニックコードを把握していきます。また、後半はダイアトニックコードの持つ7種類のスケールを学んでいきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズに限らず、ピアニストには、アドリブ演奏以外にもアレンジや作曲など、幅広い知識と理論が求められます。書き譜を見て演奏するだけではなく、理論をしっかり理解した上で演奏出来るようになります。

授業計画（1回目から7回目）

- ①コードの基本 メジャースケールと4声の和音を学びます。
- ②音程とコード 3rd、7th、5thの変化とコードネームの関係を把握しましょう。
- ③主要3和音とダイアトニックコード、4声で考えていきます。
- ④II-V-Iのコード進行を学習します。また、メジャースケールとマイナースケール ここまで復習をしてみましょう。
- ⑤II-V-Iのコード進行の復習とセカンドドミナントを学習
テンションコード① 9thの入ったテンションコードを学びます。
- ⑥II-V-Iのコード進行とセカンドドミナントの復習

テンションコード② 11th、13th の入ったテンションコードを学びます。

⑦コードとスケールの試験

中間試験評価方法・評価基準

メジャースケールとマイナースケールをしっかり理解出来ているか、コードの構成を理解しているかを譜面にかけるかどうかをチェックします。また、II-V-I のコード進行とセカンドドミナントなどを理解しているかも採点します。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧イオニアスケール、ドリアンスケール、フリジアンスケールを学習。それぞれのコードトーンやテンションノート、アボイドノートなど学んでいきます。
- ⑨リディアンスケール、リディアン7th スケールを学習。それぞれのコードトーンやテンションノート、アボイドノートなど学んでいきます。
- ⑩ミクソリディアンスケールを学習。また、V7 の時に使えるたくさんのスケールも学びます。それぞれのスケールの特徴を知り、演奏に活かしましょう。
- ⑪エオリアンスケール、ロクリアンスケールを学習。それぞれのコードトーンやテンションノート、アボイドノートなど学んでいきます。
- ⑫各スケールをもう一度復習していきます。
- ⑬様々な曲をピックアップし、コードにあったスケールは何が使えるのか、具体的に考えていく練習をします。
- ⑭前回同様、様々な曲をピックアップし、コードに合ったスケールは何が使えるのか、具体的に考えていく練習をします。
- ⑮指定した曲のコード進行、スケールを書き込む試験をします。

期末試験評価方法・評価基準

キーとコードとスケールの関係をしっかり把握出来ているか、コードの構成音を書けるかどうかなどをチェックします。

特記事項

テーマをしっかり演奏したり、アドリブ演奏をするときはそのキーのそれぞれのコードに合った理論を把握していかなければなりません。少しずつ、理論学習の幅を深めていきましょう。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンスⅡ
担当講師名	宮崎 明生
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	管楽器

担当科目に関する実務経歴

講師は長年に渡り録音業界やサポートミュージシャンとして携わって来た経験が有ります。又多ジャンルでの音楽制作、作編曲の実績も多数有ります。

授業内容

ベーシックトレーニングは引き続き多くの時間を割いて行います。楽曲ではより実践に即して、様々なジャンルの曲に対応出来るよう色々なリズム、グループの曲を演奏します。徐々に理論的にも難しくなってきますので、各时限でしっかりと理解していくよう心掛けましょう！

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3&4 クオーターは色々なコードスケールを一つづつ掘り下げ、自由自在に使い分けられるよう実践します。実際の曲の中でどのように使われ、また応用して行けば良いのか理解して行きましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 2 クオータの専攻試験曲をみんなの前で演奏する。
- ② Lydian Scale の様々なパターンを探る。コードチェンジに追従する。
- ③ Lydian b7 Jazz Minor Scale を理解する。実際にコードパターンの中で使ってみる。
- ④ Alterd Scale H. M. P. F. B を理解する。実際にコードパターンの中で使ってみる。
- ⑤ Confirmation の演奏。モチーフ展開によるソロ構築を考察する。
- ⑥ On Green Dolphin Streer の演奏。モチーフ展開によるソロ構築を考察する。
- ⑦ 3 クオーターで演奏した楽曲の中から選曲し、アドリブを含めた演奏をする。

中間試験評価方法・評価基準

取り上げたコードスケールをしっかりと把握し、キーとコードチェンジに追従出来ているかチェックします。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3 クオータの専攻試験曲をみんなの前で演奏する。
- ⑨ クリスマスマドレー。アドリブを含め各楽曲に合ったメロの歌い方とアドリブ演奏をする。
- ⑩ Rhythm Change 高速なテンポで演奏する事が多いリズムチェンジの楽曲に挑む。
Anthropology Oleo 等々。
- ⑪ Rhythm Change2 何とかコードに追従する。
- ⑫ Jazz Ballad Misty の演奏。定番曲を自分のFakeで魅力的に歌ってみる。
- ⑬ スタンダード曲 All the things you are をスムースジャズグループで吹いてみる。
- ⑭ スタンダード曲 The Day of wine and roses をスムースジャズグループで吹いてみる。
- ⑮ 秋学期で取り上げた楽曲の中から選曲し、アドリブを含めた演奏をする。

期末試験評価方法・評価基準

色々な種類のグループで演奏する知識、アーティキュレーション、テクニックの向上が見られたかチェックします。

評価基準：出席 45% 平常点 45% 試験 10%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンスⅡ
担当講師名	関谷友貴
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ギター&ベース

担当科目に関する実務経歴

TRI4TH や黒船など自己のジャズバンドでの活動。

授業内容

この科目では、セオリーの授業と連動して、自分の楽器で音を確認しつつ、音楽理論をマスターします。3 クオーターはモード、4 クオーターはマイナーキーの曲やモーダルインターチェンジを取り上げます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

アンサンブルの中で、自分がイメージしたメロディをインプロヴァイズ出来る。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①モード導入リディアン分析①／Little Sunflowerなどの曲を使って自分の楽器で演奏
- ②リディアン分析②／リディアンを使ったモチーフで作曲
- ③ミクソリディアン分析①／The Chickenなどの曲を使って自分の楽器で演奏
- ④ミクソリディアン分析②／ミクソリディアンを使ったモチーフで作曲
- ⑤ドリアン分析①／So Whatなどの曲を使って自分の楽器で演奏
- ⑥ドリアン分析②／ドリアンを使ったモチーフで作曲
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。曲のテーマをしっかり歌えているか、モードを正しく使っているか

評価します。 (テスト 40%、出席 60%)

授業計画 (8 回目から 15 回目)

- ⑧フリジアン分析／La Fiestaなどの曲を使って自分の楽器で演奏します。
- ⑨ロクリアン分析／Inner Urgeなどの曲を使って自分の楽器で演奏します。
- ⑩メジャーキーにおけるセカンダリードミナント
- ⑪マイナーダイアトニック導入
- ⑫Autumn Leaves 分析／マイナー II - V
- ⑬マイナーブルース分析
- ⑭モーダルインター・チェンジ導入
- ⑮テスト

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。曲のテーマをしっかり歌えているか、メジャーとマイナー、2つのツーファイブが使っているか、コードに対して正しいスケールが使われているかを評価します。 (テスト 40%、出席 60%)

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	セオリー&パフォーマンスⅡ
担当講師名	松永加津子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ピアノ

担当科目に関連する実務経歴

講師はビッグバンドやジャズコンボでピアノ演奏、ライブハウスで活躍中。アレンジや作曲も。また、スチューデントジャズ、セイコーサマージャズキャンプなど、子供達へのジャズ教育にも関わっています。

授業内容

ジャズ演奏をするための理論を学習します。秋学期はまずコードとコード進行、各スケールの復習、クローズコードとオープンコード、リード音指定のコードの捉え方、様々なブルースの曲、循環コード、順次進行、ひとつひとつの音に対するアプローチの考え方など、より深い理論を勉強します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズ演奏は、アドリブも大切ですが、もっと大事なのはテーマをしっかり演奏することです。そのためには、テーマのキー、コード進行、ひとつひとつのコードに使えるスケールの確認と、さらにひとつひとつの音にどうアプローチするかなど、しっかり考える力を付けていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ブルーノートスケールを使うブルースと、様々なスケールを使ったブルース。ジャズの基本のブルース、どうアプローチするか考えていきます。
- ②様々なブルースの曲を聴いてみましょう。そしてどうアプローチしているか探ってみましょう。
- ③循環コードを学習します。イントロやエンディング、様々な使い方を考えます。
- ④リズムチェンジの曲。ジャズではブルースの他に決まったコード進行のパターンのリズムチェンジがあります。いろいろな曲を聴いて、サビのコードの研究をしてみましょう。

- ⑤リズムチェンジの循環コード部分のコードのチェンジを考えてみましょう。
- ⑥ブルースとリズムチェンジ、復習します。
- ⑦ブルースとリズムチェンジについての試験をします。

中間試験評価方法・評価基準

どんな曲があるのか、誰が作ったのか、誰の演奏が有名かなど、レポートを作成してみましょう。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧アプローチのいろいろ コードトーンとノンコードトーンをしっかり学習します。その上で、1音1音に対して、どうアプローチするのかを考えます。
- ⑨アプローチのいろいろ② それぞれのスケールの1音1音にアプローチしたら、ブロックコードを作ってみます。
- ⑩ダブルリードになるようにブロックコードを作ることにチャレンジしていきます。
- ⑪ドロップ2、ドロップ3にチャレンジしてみます。また、ここまでアプローチの復習もしてみましょう。
- ⑫ディミニッシュスケールを覚えます。ディミニッシュスケールでダブルリード、ドロップ2にチャレンジします。
- ⑬自分の好きな曲を選んで、テーマをいろいろなアプローチを使ってボイシングしてみましょう。
- ⑭前回同様、しっかりとアプローチさせていきます。
- ⑮完成した曲の譜面を提出します。

期末試験評価方法・評価基準

キーとコードとスケールの関係をしっかり把握出来ているか、コードの構成音を書けるかどうかなどをチェックします。

出席：30%、平常点：30%、試験 40%

特記事項

いろいろな曲を弾くと同時に、理論が合致したときが伸びるときです。弾くだけ、理論だけでなく、このクラスで習ったことを活かして演奏に、アレンジや作曲が出来るといいですね。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ドラムセットトレーニング I
担当講師名	吉川 弾
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム

担当科目に関する実務経歴

国内外でのドラム、パーカッションの演奏活動、メジャー・アーティストのサポート、CM 楽曲提供等

メジャー・アーティストサポートでの TV 出演、コンサートツアー、アメリカでの音楽フェス'ProgDay'出演、などの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、講師の実務経験に基づき、ドラムは四肢を駆使して演奏する楽器なので、その能力を高めるための姿勢、グリップ等、一から基礎練習を行います。ドラムやシンバルから最高のトーンを引き出す秘訣や、様々なビート、複雑なコーディネーションを勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ドラムとはどういう楽器なのか、バンドにおける役割を理解した上で教科書に出てくるパターンや様々なコーディネーションが演奏出来るかどうか、そして何より機械的ではなく、音楽的に演奏出来る事。

授業計画（1回目から7回目）

- ① オリエンテーション ドラムセットのベーシックな構成の説明。
- ② 手について スティックの握り方。左右のグリップ。
- ③ メカニクス 基本ストローク。リバウンドの練習。
- ④ 練習方法と楽譜について 正しい練習方法と楽譜の正しい読み方。
- ⑤ ルーディメンツ リズミックスタイル→Swing8th ノート・フィールと straight8th ノート・フィール。
- ⑥ 足について ドラムセットのセットアップ、スネアドラム、ベースドラム、ヒールアップ&ダウン奏法。ハイハットのオープンクローズ。
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験 ・ 宿題 ・ 授業への取り組み方で評価します。出席 ・ 遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ビート・アンド・エクササイズ 音楽におけるドラマーの役割、ドラムセットにおける基本的なコーディネーションスキル。
- ⑨ ビート・アンド・エクササイズ ドラムやシンバルから最高のトーンを引きだす秘訣とは。
- ⑩ ビート・アンド・エクササイズ コーディネーション、シンプルなビート。
- ⑪ ビート・アンド・エクササイズ 8thノートビートの様々なパターン。
- ⑫ ビート・アンド・エクササイズ 16thノートビートの様々なパターン。
- ⑬ ビート・アンド・エクササイズ ライドシンバルで演奏するビート
- ⑭ ビート・アンド・エクササイズ Swing8thビート
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

クオーター末試験 ・ 宿題 ・ 授業への取り組み方で評価します。出席 ・ 遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

特記事項

特になし

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ドラムセットトレーニングⅡ
担当講師名	吉川 弾
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	ドラム

担当科目に関する実務経歴

国内外でのドラム、パーカッションの演奏活動、メジャー・アーティストのサポート、CM 楽曲提供等

メジャー・アーティストサポートでの TV 出演、コンサートツアー、アメリカでの音楽フェス'ProgDay'出演、などの実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、講師の実務経験に基づき、テンポとサブディビジョン、複雑なコンピング、様々なビート、ドラムソロ、アンサンブルについてより深く勉強していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ドラムとはどういう楽器なのか、バンドにおける役割を理解。四肢を駆使するが、機械的ではなく、音楽的に演奏出来る事。

授業計画（1回目から7回目）

- ① テンポとサブディビジョン スロー・テンポ、アップ・テンポと swing FEEL
- ② テンポとサブディビジョン タイム感を身に付ける。フィルイン。コンテクストの中でフィルをする。
- ③ コンピング コンピングボキャブラリー、コンピングエクササイズ
- ④ コンピング ハイハットバリエーション
- ⑤ コンピング ハイハットバリエーション
- ⑥ コンピング ヘミオラ・エクササイズ
- ⑦ 実技試験

中間試験評価方法・評価基準

クオーター末試験・宿題・授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コンピング インターディペンデンス (elvin-ism、 Philly joe-ism、 Matrix)
- ⑨ コンピング ロック、ポップ、ファンク・コンテクストにおけるコンピング。
- ⑩ コンピング ロック、ポップ、ファンク・コンテクストにおけるコンピング。
- ⑪ ドラム・ソロ ダイナミクス。(Sing, Sing, Sing ソロテクニック)
- ⑫ アンサンブルでの演奏 スモール・グループ、ラージ・グループ。
- ⑬ 読譜 Rhythm Method、シンプル・チャート、複雑なチャート。
- ⑭ ブラシ レガート&スタッカート。ブラシアーティキュレーション・エクササイズ
- ⑮ 実技試験

期末試験評価方法・評価基準

クオーター末試験 ・ 宿題 ・ 授業への取り組み方で評価します。出席 ・ 遅刻もおおいに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

特記事項

特になし

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	コンポージング I
担当講師名	久保田浩之
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は J-POP アーティストとして長年音楽界のメジャーシーンで創作・制作活動に携わり、作編曲、トラックメイキング、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

オリジナル楽曲を作編曲するために必要な音楽的スキルとノウハウの基礎を学びます。演習や楽曲分析を通じて作曲技法の基礎を理解し、シンプルでわかりやすいメロディーとハーモニーを備えた楽曲を制作を目指します。同時に譜面作成のスキルや簡単なアレンジの技法を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

テーマに基づいた4～8小節の短いシンプルなメロディーを創作しその譜面を作成するドリルを繰り返しメロディーを生み出すことと譜面を書くことに慣れてていきます。コードトーンやコードスケールを意識しながらシンプルなモチーフを展開して短いメロディーを創作できるようにします。短いメロディーを組み合わせてジャズスタンダードの典型的なフォームである32小節 AABA 形式の小曲を作れるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ガイダンス・4小節ドリル
- ② 4小節ドリル・8小節ドリル
- ③ モチーフディベロップメント（反復）・8小節ドリル
- ④ モチーフディベロップメント（反復）・8小節ドリル
- ⑤ モチーフディベロップメント（同型反復）・8小節ドリル
- ⑥ モチーフディベロップメント（同型反復）・8小節ドリル
- ⑦ 中間試験：反復と同型反復を使ったメロディー創作

中間試験評価方法・評価基準

授業内で作品制作し提出。

授業で学んだ作曲技法が効果的に使われているか。
メロディー全体のクオリティーと譜面作成力。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 定番コード進行（カノン進行）上でのメロディー創作
- ⑨ 定番コード進行（IV-III-VI）上でのメロディー創作
- ⑩ 循環進行（I-VI-II-V）上でのメロディー創作①
- ⑪ 循環進行（I-VI-II-V）上でのメロディー創作②
- ⑫ AABA形式について・Bセクションのメロディー創作①
- ⑬ AABA形式について・Bセクションのメロディー創作②
- ⑭ AABA形式、32小節の楽曲制作
- ⑮ 期末試験：AABA 32小節の楽曲制作

期末試験評価方法・評価基準

授業内で作品制作し提出
授業内で学んだ作曲技法を効果的に使っているか。
AABA形式の特徴を理解し音楽的かつ効果的な場面構成ができているか。
作品全体のクオリティーと譜面作成力
出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

鍵盤のアプリを各自のスマホにダウンロードしておいてください。

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	コンポージングⅡ
担当講師名	久保田浩之
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は J-POP アーティストとして長年音楽界のメジャーシーンで創作・制作活動に携わり、作編曲、トラックメイキング、サウンドプロデュースの経験を持ちます。

授業内容

メロディーを構成する要素についてインターバル、ハーモニー、リズムの観点から分析方法や作曲技法を学んでいきます。より発展的なモチーフディベロップメントや楽曲形式を学び、一貫性のあるキャッチーで立体的なメロディー作りを目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

楽曲分析の手法や考え方の基礎を学びジャズスタンダード曲等のメロディーやコード進行の解析ができるようになります。世の中の様々な楽曲の魅力的なメロディーがどのような構造になっているかを分析することで自分の創作に役立てていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① メロディーのインターバルパターン①
- ② メロディーのインターバルパターン②
- ③ ガイドトーンを用いたメロディー①
- ④ ガイドトーンを用いたメロディー②
- ⑤ アプローチノート
- ⑥ アンティシペーションとディレイドアタック
- ⑦ 中間試験：課題曲の楽曲分析（メロディーとコード進行）

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験：課題曲のメロディーとコード進行の解析
 授業で学んだメロディーを構成する要素について理解できているか。
 楽曲分析をする上で着目すべきポイントについて抑えられているか。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ モチーフデベロップメント（トランスポーテーション）
- ⑨ モチーフディベロップメント（トランسفォーメーション）
- ⑩ 様々なモチーフディベロップメント
- ⑪ 楽曲形式と楽曲構成
- ⑫ ジャズスタンダードの楽曲分析①
- ⑬ ジャズスタンダードの楽曲分析②
- ⑭ 楽曲制作（ジャズスタンダード形式）
- ⑮ 期末試験：作品を制作し提出

期末試験評価方法・評価基準

授業内で作品制作し提出

授業内で学んだ作曲技法を効果的に使っているか。

作品全体のクオリティーと譜面作成力

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	レコーディング I
担当講師名	前田基彦
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サウンド等幅広いジャンルに関わる。

授業内容

レコーディングスタジオにおいて必要な知識を習得する授業です。ミュージシャン、プレイヤーとして無くてはならないレコーディングにおける必要知識（キュー ボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル等）を、学生自身が選択した楽曲を題材に学んで行きます。また、最近の楽曲のアレンジを研究、演奏することで授業外での活動（バンドやアレンジ等）のヒントとなるように解説、指導します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディング習慣の習得、キュー ボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①レコーディングの基本の話、楽譜作成を指導します。
- ②楽曲1発表 尺調整 演奏担当者決めをします。
- ③楽曲1発表 尺調整 演奏担当者決め（続き）をします。
- ④演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑤演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑥演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑦演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト

中間試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キュー ポックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無30%、受講態度や積極性10%で算出致します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑨演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑩演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑪演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑫楽曲2発表 尺調整 演奏担当者決めをします。
- ⑬楽曲2発表 尺調整 演奏担当者決め（続き）をします。
- ⑭演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑮演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト

期末試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キュー ポックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無30%、受講態度や積極性10%で算出致します。

特記事項

なし

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	レコーディングⅡ
担当講師名	前田基彦
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

フリーランスエンジニア。自身のスタジオを中心に活動。バンド/劇伴/映画サラウンド等幅広いジャンルに関わる。

授業内容

レコーディングスタジオにおいて必要な知識を習得する授業です。 ミュージシャン、プレイヤーとして無くてはならないレコーディングにおける必要知識（キュー ボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル等）を、学生自身が選択した楽曲を題材に学んで行きます。 また、最近の楽曲のアレンジを研究、演奏することで授業外での活動（バンドやアレンジ等）のヒントとなるように解説、指導します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

レコーディング習慣の習得、キュー ボックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル習得を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ①演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ②演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ③演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ④演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑤演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑥演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑦楽曲3発表 尺調整 演奏担当者決めをします。小テスト

中間試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キュー ポックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無30%、受講態度や積極性10%で算出致します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧楽曲32発表 尺調整 演奏担当者決め（続き）をします。
- ⑨演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑩演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑪演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑫演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑬演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑭演奏（リハーサル1回、本番1回）
- ⑮演奏（リハーサル1回、本番1回）小テスト

期末試験評価方法・評価基準

小テスト結果（レコーディングにおける必要知識、キュー ポックス使用法、アンサンブル力、コミュニケーションスキル）30%、レポート（譜面作成スキル）30%、欠席や遅刻の有無30%、受講態度や積極性10%で算出致します。

特記事項

なし

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ライブ制作 I
担当講師名	大井澄東
学期	通年
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はライブやコンサート、ツアーノベルティの演出を含む、企画、運営、実施の実務経験を持ちます。

授業内容

春学期末に実施する「学科ライブ」と秋学期末に実施する「卒業ライブ」の運営を通して、ライブイベントを企画、運営、実施する際の手法と、各自でバンドを立ち上げリハーサルを積み、ライブに出演する際の注意点などを学ぶ。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ミュージシャンの活動の核となる「ライブ」に関わるあらゆる事柄を、実際のライブを制作しながら体験する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 担当振り分け
- ② フライヤーデザイン案
- ③ バンドエントリー
- ④ 各種提出物の締切確認
- ⑤ バンドシート提出
- ⑥ 音響・照明打合せ
- ⑦ 場当たり

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ① 各種提出物の締切確認
- ② バンドシート提出

- ③ Web 広報
- ④ 会場下見
- ⑤ 協賛を探そう
- ⑥ 集客確認
- ⑦ 場当たり
- ⑧ 最終確認

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズ・ポピュラー概論 I
担当講師名	大井澄東
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はライブやコンサート、ツアーノの出演を含む、企画、運営、実施の実務経験を持ちます。

授業内容

ジャズ～ポピュラーのジャンルのスペシャリストを目指すにあたり「常識」として知つていて欲しい、ジャズの起源から現代までの変遷、その周辺の音楽について、名盤、名演奏、当時の動画などを通じて学ぶ。

今後音楽シーンで仕事をして行く上で必要な、自分をプレゼンテーションする方法なども取り上げる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ジャズの起源から 60 年代までの流れを把握し、ジャズの成立過程を学ぶ

授業計画（1回目から 7回目）

- ① ジャズの誕生
- ② ビッグバンドの時代
- ③ カンザスシティ
- ④ モダンジャズの幕開け
- ⑤ バードと BeBop の神々達
- ⑥ マイルス・デイビス①クールの誕生
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

授業計画（8回目から 15回目）

- ① マイルス・デイビス②第一期黄金クインテット

- ② マイルス・デイビス③Kind Of Blue
- ③ ハードバップ
- ④ クールからウエストコーストへ
- ⑤ ジョン・コルトレーン
- ⑥ 60年代のジャズシーン
- ⑦ フリージャズ
- ⑧ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズ・ポピュラー概論Ⅱ
担当講師名	大井澄東
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師は Jazz、Latin、Brazilian、Funk 等、様々なジャンルでのライブ、コンサートツアー、レコーディングの実務経験があります。

授業内容

ジャズ～ポピュラーのジャンルのスペシャリストを目指すにあたり「常識」として知っていて欲しい、ジャズの起源から現代までの変遷、その周辺の音楽について、名盤、名演奏、当時の動画などを通して学ぶ。

今後音楽シーンで仕事をして行く上で必要な、自分をプレゼンテーションする方法なども取り上げる。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

60年代～現在に至る流れを学び、これからジャズシーンの行方を探る。
ジャズを中心に各国のジャズ・ポピュラーにまつわる流れを確認する。

授業計画（1回目から7回目）

- ① マイルス・デイビス④60年代黄金クインテット
- ② ニューメインストリーム～ポスト・バップ
- ③ マイルス・デイビス⑤エレクトリック・マイルス
- ④ マイルス・スクーラーの活躍
- ⑤ クロスオーヴァー
- ⑥ フュージョン
- ⑦ 試験

中間試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ① アコースティックジャズの復権
- ② 新伝承派と90年代前半のジャズシーン
- ③ コンテンポラリー・ジャズと踊れるジャズへの動き
- ④ ロバート・グラスパーとジャズ・ミュージシャン現在形
- ⑤ 21世紀ジャズの行方（前編）
- ⑥ 21世紀ジャズの行方（後編）
- ⑦ 一年間のまとめ
- ⑧ 試験

期末試験評価方法・評価基準

出席 70%・平常点・提出物 30%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセオリー I
担当講師名	寺屋ナオ
学期	春
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、音程、和音、和音の進行や和音の機能について学んでいきます。1Q は音程と和音記号(コードネーム)について、そして 2Q はその構成音(コードトーン)について学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1Q は音程(Interval)について理解すること、2Q はコードネームから、その構成音を理解出来るようになる事が目標です。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①授業の概要を説明します。そして、理解度を測るための小テストを実施します。
- ②イタリア音名(ド、レ、ミ)と英語音名(A, B, C)の関係について確認します。
- ③1 オクターブ以内の音程(Interval)について学びます。
- ④1 オクターブ以内の増(Aug)減(dim)に音程について学びます。
- ⑤協和的な音程(3rd, 6th etc)と、不協和な音程(m2nd M7th etc)に学びます。
- ⑥1 オクターブ以上の広い音程及び、転回音程(Inversion)について学びます。
- ⑦1Q の授業を踏まえた内容の筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施します。

連続性の高い授業なので出席を重視し、採点します。採点の比率は下記参照。

1Q のテストは、音程に対する理解を測る内容の試験を実施します。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

⑧4つの三和音(Triad)の中から、長三和音(Maj Triad)と短三和音(Min Triad)について学びます。

⑨4つの三和音(Triad)の中から、増三和音(Aug Triad)と減三和音(Dim Triad)について学びます。

⑩長三和音(Maj Triad)と短三和音(Min Triad)に音を付加して出来る4和音について学びます。

⑪増三和音(Aug Triad)と減三和音(Dim Triad)に音を付加して出来る4和音について学びます。

⑫sus表記で表される、特殊なコードについて学びます。

⑬四和音に付加される音、テンションについて学びます。

⑭add記号を使って表される、三和音に付加される音について学びます。

⑮春学期の授業を踏まえた内容の筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施します。

連続性の高い授業なので出席を重視し、採点します。採点の比率は下記参照。

前期の授業内容をふまえ、音程について、及び和音記号(コードネーム)とその構成音(コードトーン)に対する理解を理解を図る内容の試験を実施します。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

遠隔(オンライン)での授業の特性上、各授業毎の課題の提出が出席に代わるものとなります。各課題の提出などにおいて、電子機器(タブレットやスタイルスペン)の使用を推奨します。

参考図書としては、下記をお勧めします。

「ポピュラー音楽理論」

北川祐著

リットーミュージック

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	ジャズセオリーⅡ
担当講師名	寺屋ナオ
学期	秋
授業の形態	講義
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師はギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供の実務経験を持ちます。

授業内容

この科目では、音程や和音、和音の進行や機能について学びます。3Q は長調(Major Key)で作られる和音(Diatonic chord)とその機能について学びます。4Q は Diatonic Chord 以外で Major Key 上で作られる和音(Secondary Dominant など)について学びます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

3Q は Major Key の Diatonic chord の機能を理解すること、4Q は Diatonic chord 以外のコードの機能について理解することが目標です。

授業計画（1回目から 7回目）

- ①長音階(Major scale)の音使いについて学びます。
- ②メジャースケールから作られるコード、ダイアトニックコード(Diatonic chord)について学びます。
- ③トニックとドミナント機能に注目してダイアトニックコードの連結、終止形を学びます。
- ④サブドミナント機能を含めたダイアトニックコードの連結を学びます。
- ⑤トニック、ドミナント、サブドミナントの三つの機能を活用した様々なコードの連結を学びます。
- ⑥2nd、3rd、4th といった音程のルートの動きに注目し、コード進行を学びます。
- ⑦3Q の授業を踏まえた内容の筆記試験を実施します。

中間試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施します。

連續性の高い授業なので出席を重視し、採点します。採点の比率は下記参照。

ダイアトニックコードの機能に対する理解を図る内容の試験を実施します。

出席:60% 筆記試験:40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Major Key(長調)で使われる、secondary dominantについて学びます。
- ⑨Secondary dominantに関連するコード、Related II mについて学びます。
- ⑩ドミナントコードの代理コード、substitut dominantについて学びます。
- ⑪Diminished chordを使ったコード進行について学びます。
- ⑫cliche lineと呼ばれるコード進行について学びます。
- ⑬特定の調(Key)と関連する調について学びます。
- ⑭調を変える行為、転調について学びます。
- ⑮後期の授業を踏まえた内容の筆記試験を実施します。

期末試験評価方法・評価基準

筆記試験を実施します。

連續性の高い授業なので出席を重視し、採点します。採点の比率は下記参照。

後期授業に対する理解を図る内容の試験を実施します。

出席:60% 筆記試験:40%

特記事項

遠隔(オンライン)での授業の特性上、各授業毎の課題の提出が出席に代わるものとなります。各課題の提出などにおいて、電子機器(タブレットやスタイルスペン)の使用を推奨します。

参考図書としては、下記をお勧めします。

「ポピュラー音楽理論」

北川祐 著

リットーミュージック

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スコアトレーニング I
担当講師名	須田晶子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます

授業内容

譜面に書いてあるリズムやメロディを基礎から理解し歌う訓練です。どの楽器でもリズムや音を声に出せるとより説得力ある音が生み出せます。更にアメリカの学校で教える共通の読み方で行うので留学を考えている人や海外のミュージシャンと触れる機会に役立ります。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダイアトニックでのメロディをどんなキーでも移動ドで歌えるようにし、理論と聴覚の基礎的なスキルをより理解できるようします。そして色々な長さのリズムに対応し、更に演奏する上で必要なピッチ感をある程度正確に聴き取り判断していく能力を高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①譜面の読み方や基礎を確認し、譜面を英語の言い方で練習します。リズムは全音符～8分音符、メロディはCのキーでダイアトニック音階。
- ②リズムの復習、メロディはFとGのキーで移動度で歌う練習をします。
簡単なリズムとメロディの聴音をします。
- ③リズムは16分音符が加わったリズム、メロディはB♭とDのキーのメロディを移動度で歌う練習をします。
- ④4/2のリズム、メロディはA、E♭、E、A♭で練習します。今までの要素が出てくる聴音を行います。
- ⑤シンコペーションを加えたリズムの練習、メロディはB、D♭、F♯、G♭のキーを加えた練習。
- ⑥今まで出てきた要素全ての復習と応用を練習します。聴音の練習。
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席数、授業の内容に対する取り組み方、テストの結果、そして他人との比較でなく一人一人が今までの授業で行ってきた内容の中で技術的に向上したかを確認します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧今までのメロディやリズムの復習、聴音、そして新たに8分音符での3連符を加えた練習をします。
- ⑨今までのメロディやリズムの復習、聴音、そして新たに8分音符での3連符を加えた練習をします。
- ⑩応用のリズム、クロマチックのメロディの読み方を確認し練習します。
- ⑪8分音符4分音符が混ざった3連符、4分音符の3連符のリズム練習、転回を加えたメロディの練習をします。
- ⑫全てのクロマチックノートを使ったメロディ、聴音は今までの内容を含んだメロディ、リズムを練習します。
- ⑬全てのクロマチックノートを使ったメロディ、聴音は今までの内容を含んだメロディ、リズムを練習します。
- ⑭今まで出てきた要素全ての復習と応用を練習します。テストに向けた聴音の練習。
- ⑮テスト

期末試験評価方法・評価基準

出席数、授業の内容に対する取り組み方、テストの結果、そして他人との比較でなく一人一人が今までの授業で行ってきた内容の中で技術的に向上したかを確認します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	スコアトレーニングⅡ
担当講師名	須田晶子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経験

講師は様々な場所でのライブコンサート、アルバム制作、ジャズスクールでの講師指導経験を持ちます

授業内容

リズムやメロディを基礎から理解し歌う訓練です。春期同様の練習に加え、コードの響き、アーティキュレーション記号などへの理解も進めていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ダイアトニックでのメロディをどんなキーでも移動ドで歌えるようにし、理論と聴覚の基礎的なスキルをより理解できるようします。そして色んな長さのリズムに対応し、更に演奏する上で必要なピッチ感をある程度正確に聴き取り判断していく能力を高めます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①今まで出てきた要素全ての復習と応用を練習します。
- ②2分音符の3連符と16音符の3連符を加えたリズム、トニックとドミナントに関するメロディの練習をします。
- ③32分音符を加えたリズム、サブドミナント-ドミナント-トニックに関するメロディを練習します。
- ④32分音符を加えたリズム、サブドミナント-ドミナント-トニックに関するメロディを練習します。
- ⑤タイ、8分休符、16分休符を加えたリズム、トニック、サブドミナント、ドミナントに関するメロディ、聴音は2音のインターバルを練習します。
- ⑥タイ、8分休符、16分休符を加えたリズム、トニック、サブドミナント、ドミナントに関するメロディ、聴音は2音のインターバルを練習します。
- ⑦テスト

中間試験評価方法・評価基準

出席数、授業の内容に対する取り組み方、テストの結果、そして他人との比較でなく一人一人が今までの授業で行ってきた内容の中で技術的に向上したかを確認します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧復習と難易度が上がった内容のリズムを練習します。
- ⑨復習と難易度が上がった内容のリズム、メロディ、聴音は音のインターバル、シンプルなコードを練習します。
- ⑩3和音、4和音のコード。一つずつ音を歌い確認しながら聴音練習をします。
- ⑪3和音、4和音のコード。一つずつ音を歌い確認しながら聴音練習をします。
- ⑫アーティキュレーション記号を学びます。
- ⑬アーティキュレーション記号を学びます
- ⑭聴音テスト
- ⑮アーティキュレーションテスト

期末試験評価方法・評価基準

出席数、授業の内容に対する取り組み方、テストの結果、そして他人との比較でなく一人一人が今までの授業で行ってきた内容の中で技術的に向上したかを確認します。

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	コンピュータリテラシー I
担当講師名	笠原康弘
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして 3 年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

コンピュータの基本操作を学び、ミュージシャンの自己表現ツールとしての活用を目指す。アプリケーションの基本的操作技術を習得し、音楽活動に幅広さや時間短縮など様々な面でプラスアルファにするための講義。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上記授業内容イコール到達目標ですが、ソフトウェアのコマンドだけを覚えても良い音楽にはならないため、コンピュータと音楽の総合的な知識も同時にレベルアップしていくための講義を目指します。

授業計画（1回目から 7回目）

- ① ネットを活用したミュージシャンの現状、未来
- ② 起動、入力、保存媒体、フォーマット、等の知識
- ③ ネットワーク、MIDI コントローラー、オーディオインターフェース、キーボード等の知識
- ④ PS 等画像編集ソフトの知識
- ⑤ 自己 PR 用パンフレットの制作
- ⑥ CD ジャケットの制作
- ⑦ フライヤー等の制作

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ ネットをベースにしたミュージシャンの方法論
- ⑨ ネットをベースにしたミュージシャンの方法論②
- ⑩ ネットをベースにしたミュージシャンの方法論③
- ⑪ CUBASE の基本的操作を把握し、活用する
- ⑫ CUBASE の入力
- ⑬ CUBASE によるオーディオファイルの完成
- ⑭ FINALE の基本的操作を把握し、活用する
- ⑮ ソフトウェアを活用したミュージシャンの可能性

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	ジャズ・ポピュラー学科
科目名	コンピュータリテラシーII
担当講師名	笠原康弘
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関する実務経歴

コンピュータ・ミュージック専用データ販売、及びコンピュータ・デザイン会社にミュージックプロデューサーとして3年程勤務。数百曲のデータ作りを担当。マイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

授業内容

コンピュータの基本操作を学び、ミュージシャンの自己表現ツールとしての活用を目指す。アプリケーションの基本的操作技術を習得し、音楽活動に幅広さや時間短縮など様々な面でプラスアルファにするための講義。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

上記授業内容イコール到達目標ですが、ソフトウェアのコマンドだけを覚えて良い音楽にはならないため、コンピュータと音楽の総合的な知識も同時にレベルアップしていくための講義を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ネットを活用したミュージシャンの現状、未来
- ② シーケンサー、DAWの使い方を深く知る。
- ③ オーディオファイルの概要
- ④ オーディオの加工
- ⑤ エフェクトの使い方
- ⑥ MIDIとオーディオのミックス
- ⑦ 楽曲の制作

中間試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 作曲技法
- ⑨ 作曲技法 2
- ⑩ アレンジ 1
- ⑪ アレンジ 2
- ⑫ 動画やゲーム等に対する音付け
- ⑬ FINALE との連携 楽譜の作成
- ⑭ PC スキルと演奏スキルの活用方法
- ⑮ PC を活用したミュージシャンの可能性

期末試験評価方法・評価基準

出席率を重視します。その他授業への取り組み方などが評価対象です。
出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項